

近代中国研究センター

彙報

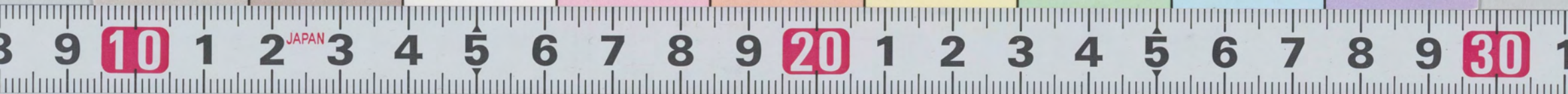
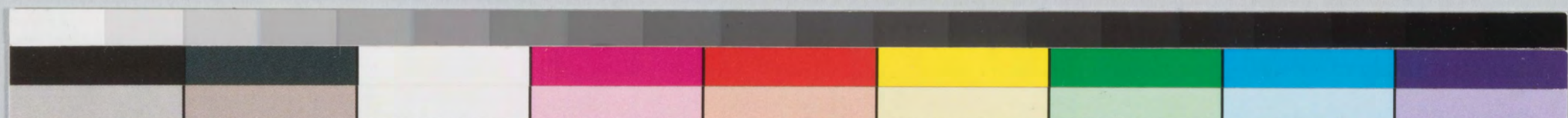
10

事務用



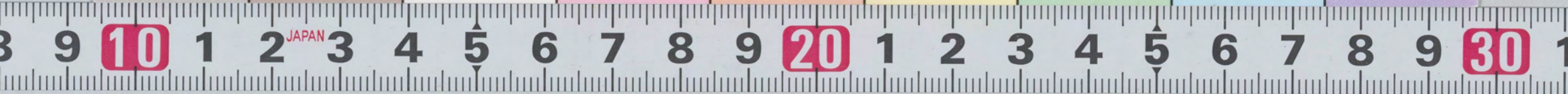
1967

羊文庫



も く じ

市古宙三：近代中国研究の手びき	1
徳田教之：中共党史関係資料目録（2）	8
日本人の新中国旅行記	25



近代中国研究の手びき

—日本人の研究論文を探す方法—

市古宙三

I はしがき

- 1) ここに近代中国というのは、19世紀の中頃から今日までの中国を指す。但し、五・四運動以降を現代と表現することもある。
- 2) 日本人の研究書、研究論文にどんなものがあるかを探するのに最も手っ取り早い方法は、そのテーマ、あるいはテーマに密接に関連する項目を、『アジア歴史事典』に当たってみることである。もしこの事典にあれば、その参考文献の中に、日本人の研究成果を見出すことができるであろう。
- 3) しかし自分の選んだ研究テーマが、うまく『アジア歴史事典』に出ているとは限らないし、出ていても参考文献のあげてないばあいがある。あげてあっても一、二にすぎずもっとたくさんみたいということがある。そういうばあいには、文献目録、解題とか、入門書、動向の類をみればいい。
- 4) この『手びき』の主目的は、近代中国研究者に役立つような文献目録、解題や入門書、動向の類を紹介することである。
- 5) 文献目録、解題には網羅的なものと精選されたものとある。初心のものには後者がいいが、研究をすすめていくにつれて前者が必要となる。入門書、動向の類は、精選された文献目録、解題に相当するといえよう。
- 6) 以下、東洋文庫で見られるものを主として、文献目録、解題、入門書、動向を列挙する。各項をみるに当たって次のことを注意してほしい。
 - イ) 『 』は単行本・雑誌、「 」は単行本の一章、雑誌の論文をあらわす。
 - ロ) 書名の次に(1945. 8~1966. 8)という風にかかっているのは、『この書によって1945年8月から1966年8月までに発表された研究書、研究論文が検索できる』ということを意味する。(1934~)とあるのは、現在も刊行中であることを示す。
 - ハ) 各項の末尾にローマ字が記してある。Jは日本文献、Cは中国文文献、Wは欧文文献をあらわす。

またAは解題のついているもの、Gは入門書、Tは動向をあらわす。たとえば『J C W. A.』とあるのは『この目録には、日本文の研究論文だけでなく、中文、欧文のものも含み、且つ解説がついている』ということを意味する。また『J.』とあるのは、『日本文だけの論文目録で、解説がついていない』ことをあらわす。

- 7) 中国人、西洋人の研究論文を探す方法は、別に述べるつもりである。

II 逐次刊行物

- 【1】『東洋学文献類目』(1934~)。京都大学人文科学研究所編。J C W.
- 【2】『史学文献目録』(1960~)。『史学雑誌』所収。J.
- 【3】『近刊叢欄』(1935~)。『東洋史研究』所収。J C.
- 【4】『雑誌記事索引』(1948~)。国立国会図書館編。J.
- 【5】『産業経済雑誌主要記事索引』(1963. 4~)。日本開発銀行中央資料室編。J.
- 【6】『中国研究資料目録』(1950~)。『中国政治経済綜覧』所収。J C.
- 【7】『全日本出版物総目録』(1948~)。国立国会図書館編。J.
- 【8】『出版年鑑』(1930~1948, 1951~)。出版ニュース社編。J.
- 【9】“Revue bibliographique de sinologie” (1955~)。J C W. A.
- 【10】Toho Gakkai. “Books and articles on Oriental subjects published in Japan” (1954~)。J. A.
- 【11】“Historical abstracts” (1955~)。J C W. A.
- 【12】『回顧と展望』(1950~)。『史学雑誌』5月特輯号。J. T.
- 【13】『歴史学の成果と課題』(1950~1957)。歴史学研究会編。J. T.
- 【14】『歴史学年報』(1935, 1937~1943)。歴史学研究

[7600]
心に、日
もの。中
武漢・
見聞記が
ム・カン
て、アジ
いてい
さらには

[7001]
作成する
り2ヶ月
一行は、
書の前
・延安・
各地の紹
民衆に焦
婦人の
日常生活
上の苦
解任の大
るにおり

[7231]
設・家庭
に関する
録に「最
1964年10
して中国
結合とい
社立の農
を示して
」という
方の面か
づく)



会編。J. T.

日本人の研究成果を探せばあいに、いちばん便利なものは【1】である。これはもと『東洋史研究文献類目』（1934年度から1960年度まで）、『東洋学研究文献類目』（1961、62年度）と呼ばれていたもの。1957年度以降は毎年1冊であるが、それ以前は、1年1冊のこともあれば、2年1冊、5年1冊のこともあった。今みられるいちばん新しいのは、1965年度のものである。

では、1966年、67年といった最近の研究は何をみたらいいか。それに便利なのは【2】【3】である。

【2】は『史学雑誌』の末尾につけられているもので、東洋史の目録は、年3回附録されている。これは時代によって分類されているが、【3】は雑誌別に記されている。

【1】【2】【3】はいずれも東洋史の文献目録である。歴史の人はとかく近代を軽視しがちである。だから、これらの目録では、他の時代に比して近代のところ弱い。その欠点を補うには歴史専門でない【4】～【8】を使うとよい。【4】には人文・社会篇、科学技術篇の別があり、1962年4月以降は月刊である。【5】【7】【8】は年鑑。日本の出版物を調べるには【7】が最も便利。これは国会図書館に納本されたものの目録である。但し刊行が少しおそく、今みられるいちばん新しいのは、1965年度のものである。いま1966年の出版物をみようというなら、【8】に頼ったらいい。【6】の『中国政治経済総覧』は1954年に創刊され、1960年から隔年に刊行されている。1954年度の資料目録には雑誌論文も単行本も含まれているが、1960年度以降は単行本だけである。

【1】～【8】は、ただ目録だけであって、論文の内容はサッパリわからない。また目録を作るのに取捨選択はされていない。だから初心者には「どれから読んでいいの見当がつかない」という不便さがある。それには、いい研究だけをとりあげ解説をつけたものがほしい。残念ながらこの種のものに、日本語で書いたものはないが、外国語で書かれたものに、【9】【10】【11】がある。【9】は解説といっても、主題が英訳されているという程度にすぎない。いちばんいいのは【9】であろう。これは世界各国の学者がその専門とする分野のものに解説をつけたものである。但し現代のところは弱い。また最新刊は1960年度のものであって、これでは遅すぎる。【12】【13】【14】は解題ではなく動向であるが、これでも論文・著書の良し悪しや内容をうかがうこ

とができる。

【1】～【14】はいずれも逐次刊行物である。多くは1年に1回のものである。だから最近の日本人の業績を調べるにはいいが、これまでの日本人の研究を調べるとなると、何年分かをあわせてみなければならず、面倒である。このばあいには、ここに掲げたものはめったに使われず、以下述べるものに専ら頼ることになる。但し、【1】だけは例外。これまでの日本人の研究を調べたいなら、【1】を全部くってみるがいい。

III 総合・歴史

- 【15】 John King Fairbank & Masataka Banno.
“Japanese studies of modern China; a bibliographical guide to historical and social science research on the 19th and 20th centuries”.
Tokyo, 1955, 331p. J. A.
- 【16】 『戦後五年中国関係図書目録』（1945. 9～1950. 8）。平和彦編，1950年，198頁。J.
- 【17】 『戦後十年中国関係図書目録』（1945. 9～1955. 6）。北川和彦・亀井慶子編，1955年，94頁。J.
- 【18】 「世界史参考文献目録」（1926～1960）。誠文堂新光社『世界史大系』別巻所収，1960年。J.
- 【19】 「戦後日本における現代中国関係主要雑誌論文目録」（1946. 1～1955. 7）。石川忠雄編（『法学研究』19—6～11所収）。J.
- 【20】 「最近日本における現代中国関係主要雑誌論文目録」（1955. 4～1957. 9）。石川忠雄編（『法学研究』31—11・12所収）。J.
- 【21】 『邦文歴史学関係諸雑誌東洋史論文要目：改訂増補』（～1935. 12）。大塚史学会高師部会編，1936年，362頁。J.
- 【22】 『日本期刊三十八種中東方学論文篇目附引得』（哈仏燕京学社引得6）。于式玉編，1933年，373頁。J.
- 【23】 『一百七十五種日本期刊中東方学論文篇目附引得』（哈仏燕京学社引得13）。于式王・劉選民編，1940年，198・131・124・36頁。J.
- 【24】 『満鉄調査課備附資料索引目録』（～1927. 9）。満鉄庶務部調査課編，1928・29年，2冊。J C W.
- 【25】 『資料索引』第3輯（1927. 10～1933. 10）。満鉄総務部資料課編，1934年，1467頁。J C W.
- 【26】 『法政経済社会論文総覧』（～1926. 6）。天野敬太郎編，1927年，1360頁。J.
- 【27】 『大東亜資料総覧』（1941. 12～1942. 12）。天野敬

は、日
踏まえ
そのた
く対立
と考え
人々に
れば、
書は帰
ての代
容は重

紅衛兵
東
本書
さまを
質を考
るとの
え、ま
たり、
報等に
話、ソ
る。そ
の中共
の経過

中国文
東
著者
学社会
た訪中
月24日
は馬場
郊外の
の西湖
人民公
二綿紉
著者が
社会に
は195
タリア
の本質
論（社
してと
の矛盾

- 太郎編, 1944年, 506頁。J. A.
- 【28】『支那問題文献辞典』(1926～1940)。馬場明男編, 1940年, 350頁。J. A.
- 【29】『東洋史料集成』。平凡社編, 1956年, 556頁。J C W. G.
- 【30】『中国史学入門』。東方学術協会編, 1951年, 693頁。J C W. G.
- 【31】『現代中国入門: 何を讀むべきか』。新島淳良・野村浩一編, 1965年, 281頁。J. G.
- 【32】『中国研究入門』。藤村俊郎・山下米子編 (『アジア・アフリカ研究入門』所収, 1965年)。J. G.
- 【33】『日本における歴史学の発達と現状』〔I〕(1945～1958)。国際歴史学会議日本国内委員会編, 1959年, 514頁。J. T.
- 【34】『日本における歴史学の発達と現状』〔II〕(1958～1962)。国際歴史学会議日本国内委員会編, 1966年, 475頁。J. T.
- 【35】『明治以後に於ける歴史学の発達』。歴史文化研究会編 (『歴史教育』特輯号, 1932年)。J. T.
- 【36】Centre for East Asian Cultural Studies. "Recent trends of East Asian studies in Japan with bibliography". Tokyo, 1962, 329p. J. T.
- 【37】Masataka Banno and others. "Development of China studies in postwar Japan" (in "The Development Economies", Preliminary Issue, No. 2, 1962). J. T.

日本人の研究は、1945年を界として、戦前戦後に分けられる。いま普通に、日本人の研究にどんなものがあるか、といったばあいは、戦後の研究を指す。それを調べるには、【15】～【20】がある。【16】【17】は単行本、【19】【20】は雑誌論文の網羅的な目録であるが、いずれも現代に重点がおかれているので、現代に弱い【1】の補いを十分にする。現代のことを調べるなら、【1】よりもむしろこれらの方がいい。但し残念なことに、単行本は1955年、雑誌論文は1957年で終わってしまっている。誰か、これらに継ぐものを編集する人はいないのだろうか。【18】は戦後に限らない。昭和35年にいたるまでの昭和年代の東洋史関係の単行本を調べるには便利である。但し現代は弱い。

戦前の研究は、研究としての価値はすでに失われたものでも、資料として価値あるものが少ない。戦前の研究を調べるなら、【21】～【28】がある。前にも述べたように、戦前の研究を調べるにも、【1】がいいが、しかしこれは1934年度以降しかない。1933年前の分を補うには、【21】【22】【23】がい

い。但し、【1】と同じように、現代は手薄である。現代に関してなら【24】【25】がいい。【27】【28】にはかなり詳しい解説がついている。

以上は、戦前戦後分を通じて、研究論文、著書を羅列しただけのものがほとんどである。こういうものも勿論ほしいが、編者がいいと思うものだけを選んで、これに解説をつけたものがほしい。【15】はまさにその要求をみたしたものといえよう。しかも他書が近代中国だけに限られていないのに対し、これはアヘン戦争、太平天国以降だけを対象にするものだから、近代中国の研究者にうってつけのものといえよう。ただ残念なことに日本語でない。また刊行が1955年であるから、最近十数年の研究が含まれていない。日本語で、最新の研究まで含めたこの種のもの、日本人によって編集刊行さるべきであろう。

【29】～【37】は、文献目録、解題の類ではないが、日本人の研究で注目すべきものにどんなものがあるか、それではどんなことが論ぜられているか、等を知るに便利な入門書、動向である。中でももっとも研究に役立つのは【29】。これは『世界歴史事典』第23巻「史料篇、東洋」を単行本としたもので、概説、辞典、地図、索引、目録、年表、研究、史料などにどんなものがあるかが記されていて便利、簡単な説明——形容詞的な——もついている。近代のところも可成り詳しい(266～325頁)。勿論、日本文のものだけでなく、中文、欧文のものも含まれている。【30】は同じく入門書、但し「清」で終わっている。【31】は、一般の人が現代中国を知るためにどんなものを読んだらいいか、という問いには誠にいい指針であるが、研究者むきではない。【33】～【36】で、日本における近代中国研究の動向を知ることができるが簡単。【37】はアジア経済研究所の刊行。坂野正高(序文)、土井章(日本における中国研究機関)、関寛治(近代中国の政治研究)、宮下忠雄(戦後日本における中共経済の研究)が執筆している。これは【33】～【36】と異り、現代の研究に重心がある。

IV 法制・政治

- 【38】『法制史文献目録』(1945～1959)。法制史学会編, 1962年, 290頁。J.
- 【39】『日本におけるアジア・アフリカ研究の現状と課題: 文献目録・解題——中国・法律』。アジア・アフリカ総合研究組織発行, 1966年, 130頁。J C A.

- 【40】『日本におけるアジア・アフリカ研究の現状と課題：文献目録・解題——中国・政治』。アジア・アフリカ総合研究組織発行，1966年，35頁。J. C. A.
- 【41】『日本外交史関係文献目録』（1926～1960）。英修道編，1961年，485頁。J. C. W.
- 【42】「日中関係史文献目録」（『日本外交史研究：日中関係の展開』所収，1961年）。J.
- 【43】『列国の対支勢力滲透史文献目録』。東亜研究所編，1942年，146頁。J. C. W.
- 【44】『列国対支投資及び支那国際収支に関する文献目録』，東亜研究所編，1942年，90頁。J. C. W.
- 【45】「日本における現代中国政治の研究」。曾村保信著（『アジア研究』11—1所収，1964年）。J. T.
- 【38】は中華民国で終り，人民共和国はない。
- 【39】は新中国の法律に関する日本文の文献目録・解題のほか，中国の雑誌『政法研究』『法学』の主要論文の解説がある。【40】は，中国の階級闘争に関する中国文図書の解説，「ソ連の資本主義復活」「社会主義社会の性格」に関する日本・中国の研究論文の解説，中国の階級闘争に関する日本の経済研究論文目録，中国の階級闘争に関する各分野の中国側研究論文目録，から成る。【41】は日中関係史を調べるのに役立つ。邦文・中文・欧文の単行本のほか，『国際法外交雑誌』『外交時報』『国際聯盟』『国際知識』など日本雑誌の雑誌別関係論文の目録がある。

V 経済・社会

- 【46】『日本におけるアジア・アフリカ研究の現状と課題：文献目録・解題——中国・経済』（1945. 8～1965. 3）。アジア・アフリカ総合研究組織発行，1967年，142頁。J. A.
- 【47】『支那農業に関する主要文献目録』（1912～1940. 6）。東亜研究所第六調査委員会支那経済慣行調査部編，1940年，103頁。J.
- 【48】『支那鉱工業に関する主要文献目録』（1912～1939）。同前編，1940年，3冊。J. C. W.
- 【49】『支那商業に関する主要文献目録』。同前編，1940年，2冊。J. C. W.
- 【50】『支那金融に関する主要文献目録』。同前編，1940年，2冊。J. C. W.
- 【51】『日本におけるアジア・アフリカ研究の現状と課題：文献目録・解題——地理』（1942～1965）。アジア・アフリカ総合研究組織発行，1966年，68頁。J. A.

- 【52】『東亜関係統計資料目録』（1930～1940）。東亜研究所編，1942年，331頁。J. C. W.
- 【53】『日本旧外地関係統計資料目録』（～1945. 8）。国立国会図書館編，1964年，191頁。J.
- 【54】『満州経済統計文献目録』（～1932. 11）。満鉄経済調査会編，1933年，260頁。J. A.
- 【55】『経済史学入門』。井上幸治・入交好脩編，1966年，648頁。J. C. W. G.
- 【56】『経済史研究の栞4：東洋経済史篇』，東京商科大学一橋新聞部編，1950年。J. C. W. G.
- 【57】『社会経済史学の発達』（『社会経済史学』10—11・12，1941年）。J. T.
- 【58】『戦後における社会経済史学の発達』（『社会経済史学』20—4・5・6，1956年）。J. T.
- 【59】『最近10年間における社会経済史学の発達』（『社会経済史学』31—1～5，1966年）。J. T.
- 【60】「戦後日本における中共経済研究」。宮下忠雄著（『アジア研究』11—1所収，1964年）。J. T.

【46】は戦後日本における新中国経済研究の成果を調べるのに最も便利。著書・翻訳書・調査報告・論文の目録であるが，主なものには簡単な解説がつけてある。【60】はこれに対応する研究の動向を記す。新中国の経済だけでなく，中国の社会経済史に関する日本人の研究動向は，【57】【58】【59】で知られる。近代中国のところは，それぞれ宇佐美誠次郎，北村敬直，佐伯有一によって書かれている。入門書では【55】【56】がいい。【56】の近代中国は村松祐次の執筆，戦前の研究文献・動向，関係史料が示されている。【55】は最新刊，近代に重きがおかれている。「総説」（山根幸夫），「資本主義の萌芽問題」（佐藤文俊），「旧民主主義革命期の経済」（早瀬昭秀・久保田文次・野沢豊），「新民主主義革命期の経済」（姫田光義・野沢豊），「社会主義社会の経済」（安藤正士）のテーマ毎に，問題の所在，研究の動向，史料などが記されている。

VI 思想・文化

- 【61】『中国思想・宗教・文化関係論文目録』。中国思想宗教史研究会編，1960年，331・52頁。J.
- 【62】『中国文化史日本語文献目録：教育・キリスト教』。矢沢利彦・多賀秋五郎編，1955年，84頁。J.
- 【63】『日本におけるアジア・アフリカ研究の現状と課題：文献目録・解題——教育』。アジア・アフリカ総合研究組織発行，1966年，92頁。J. A.
- 【64】『現代中国文学研究文献目録』（1919～1945）。飯



- 田吉郎編, 1959年, 86頁。J.
- 【65】『中国語学文献目録』(1945. 8~1957. 7)。中国語学研究会編, 1957年, 61頁。J.
- 【66】『文学・哲学・史学・文献目録Ⅲ——東洋文学・語学篇』(1945. 8~1953. 10)。日本学術会議第一部編, 1954年, 127頁。J.
- 【67】『文学・哲学・史学・文献目録Ⅲ——東洋文学・語学篇補遺』(1953. 11~1956. 12)。日本学術会議第一部編, 1958年, 127頁。J.
- 【68】『文学・哲学・史学・文献目録Ⅹ——中国哲学・思想篇』(1945. 8~1959. 6)。日本学術会議第一部編, 1959年, 293頁。J.
- 【69】『文科系文献目録ⅩⅦ——倫理学篇』(1945. 8~1963. 3)。日本学術会議第一部編, 1964年, 250頁。J.
- 【70】『中国歴史地理研究論文目録』。東京教育大学文学部東洋史研究室アジア史研究会編, 1960年, 161頁。J.

【61】【70】は戦前戦後を通じた日本人の研究論文目録で、東洋史研究者には甚だ便利であるが、現代は弱い。【63】は主として戦後のもの。

VII 地域別

- 【71】『新疆研究文献目録』(1886~1962)。袁同礼・渡辺宏編, 1962年, 92頁。J.
- 【72】『蒙古研究文献目録』(1900~1950)。岩村忍・藤枝晃編, 1953年, 46頁。J.
- 【73】『満州関係資料集成』(~1938, 11)。満州事情案内所編, 1939年, 778頁。J.
- 【74】『満州土地問題関係文献目録』。満鉄調査部編, 1943年, 233頁, J C. A.
- 【75】『満州史研究』。歴史学研究会編, 1936年, 312・97頁。J C W. T.
- 【76】『北支那文献総覧』。満鉄大連図書館編, 1936年, 64頁。J C W.
- 【77】『中支那文献総覧』(1938年10月現在)。満鉄大連図書館編, 1939年, 56頁。J C W.
- 【78】『南支那文献総覧』(1940年12月現在)。満鉄大連図書館編, 1941年, 140頁。J C W.
- 【79】『南支那文献目録』(1941年12月現在)。台湾総督府外事部編, 1943年, 409頁。J C W.
- 【80】『台湾文献綜合目録』。大陸書店編, 台北, 1950年, 70頁。J.
- 【81】『台湾農業関係文献目録——附：南方諸地域の農業文献目録』(1895~1945. 8)。南方農業協会編,

1958年, 352・42頁。J.

VIII トピック別

- 【82】『太平天国史研究文献目録』(『お茶の水史学』6所収, 1963年)。J C.
- 【83】『戊戌変法研究文献目録』。山根幸夫・緑川勝子編(『史論』14・15所収, 1966年)。J C.
- 【84】『辛亥革命史研究文献目録』(『史論』13, 1963年)。J.
- 【85】『辛亥革命と大正政変——文献目録』(1911. 10~1912. 3)。野沢豊編(『中国近代化の社会構造』所収, 1960年)。J.
- 【86】『日本における孫文関係文献目録』。野沢豊編(『思想』399所収, 1957年)。J.
- 【87】『中共史研究ノート』。衛藤瀧吉編(『東洋学報』43-2所収, 1960年)。J W. G.
- 【88】『人民公社資料索引——本邦諸雑誌掲載論文の執筆者と題名』(『アジア経済旬報』500所収, 1962年)。J.
- 【89】『日本における人民公社の紹介・研究』。杉野明夫編(『アジア研究』7-3所収, 1961年)。J. A.
- 【90】『東洋文庫所蔵近百年来中国名人関係図書目録』。市古宙三・国岡妙子編(『近代中国研究』4所収, 1960年)。J C W.
- 【91】『近代中国の政治家思想家——日本人の論文目録』(『お茶の水史学』9所収, 1966年)。J.
- 【92】『近代中国研究の手びき——人物について調べる方法』。市古宙三編(『お茶の水史学』7所収, 1964年)。J C W. A.
- 【93】『日本人の新中国旅行記』(『近代中国研究センター彙報』4所収, 1964年)。J. A.
- 研究書にはたいていこの種の文献目録が附録されているが、これらは省いた。ここには最近の雑誌にみられる目録をすこし挙げてみた。【87】は文献目録ではない、中共史研究の入門書ともいべきもので、中共史研究者が読むべき邦文、欧文の図書をあげ、その価値、内容など簡単な解説をつけていて、極めて便利である。【90】【91】【92】は、日本人の近代中国人に関する記述、研究を深ずるのに手びきとなる。

IX 雑誌・機関・個人別目録

- 【94】『雑誌総目次索引集覧』, 天野敬太郎編, 1966年, 137頁。J.



- 【95】『日本における東洋史論文目録』（～1962）。東洋史研究論文目録編集委員会編，1964～1967年，4冊。J.
- 【96】『中国関係日本文雑誌論説記事目録（1）——外事警察報・北京週報・燕塵』。近代中国研究センター編，1964年，240頁。J.
- 【97】『中国関係日本文雑誌論説記事目録（2）——支那時報・東亜・情報・調査月報・特調班月報』。近代中国研究センター編，1965年，244頁。J.
- 【98】『『インタナショナル』アジア関係記事目録』（1927～1933）。藤田正典編（『アジア研究』12～13所収，1965年）。J.
- 【99】『『北京満鉄月報』補説——総目録について』。伊藤武雄著（『アジア経済旬報』615，1965年）。J.
- 【100】Teng Ssu-yü. "Japanese studies on Japan and the Far East". Hong Kong, 1961, 485p. J.
- 【101】『『現代中国学会』会員著作目録』（1960～1962）。現代中国学会愛知大学支部編（『愛知大学国際問題研究所紀要』33・35所収，1962・1963年）。J.
- 【102】『外務省出版物目録』（～1931.12）。外務省文書課編，1931年，285・32頁。J.
- 【103】『南満州鉄道株式会社刊行物目録』（1940年3月現在）。南満州鉄道株式会社調査部編，1941年，227頁。J.
- 【104】『東研成果摘要』（1938.9～1943.8）。東亜研究所編，1943年，268頁。J. A.

以上はいずれも、何かの形で分類されているものである。だから一般的な、東洋学とか経済史学の文献目録であっても、近代中国関係の論文、著書を探し出すのに、そんなに面倒ではない。しかし分類にはどうしても編者の主観が入る。たとえば「清末の農民暴動」という論文があったとする。この論文は、人によっては「政治」に分類するだろうし、あるいは「経済」また「社会」の項に入れる人もいよう。何にいれるかは分類する人によって違ってしまふ。だから分類されているものでも、余り分類は信用しないで、いろいろな所を見てもねばならない。しかし、わたくしたちは安易につくものである。分類されている文献目録のばあい、その分類を信用して、ある一ヶ所しかみないために、他所に入れられている文献をみおとして了うことになる。その意味で、分類されていない目録を、たんねんに、始めから終りまで目を通すのが案外いい。雑誌論文なら、その総目録にずっと目をやるのである。

雑誌の総目録はたいていその雑誌が、単行本で、或は雑誌の附録として出している。どの巻号にそれ

があるか、単行本はどのような形で出ているか、を調べるには、【94】が便利である。【95】は、540種の邦文雑誌の中から東洋史に關係する論文名をぬきだし、雑誌別、発行年次順に排列したもので、第4冊は著者索引である。この中には近代中国研究者にとって必要な『満鉄調査月報』『満鉄支那月誌』『支那研究』『東亜』の類も含まれている。このような雑誌の論文は、今では研究としてではなく資料として使われるものが多いが、【96】【97】はこの種の雑誌の総目録を集めたものである。

著者別の目録も案外に便利である。【100】【101】がそれ。【100】には著者の簡単な説明がついている。但しこれには日本研究も古代研究も入っているので、近代中国はそんなに詳しくはない。

【102】【103】【104】は、それぞれ、外務省、満鉄、東亜研究所の刊行物目録。この三機関は戦前の主要な中国研究機関だから、戦前の出版物を調べるにはこれらが役立つ。【104】には内容が説明されている。

X 総合目録・蔵書目録

- 【105】『学術雑誌総合目録：人文科学和文編』（1957年12月現在）。文部省大学学術局編，1959年，560頁。J.
- 【106】『日本文・中国文・朝鮮文等逐次刊行物目録』（～1962年）。東洋学文献センター連絡協議会，1964年，178頁。JCK.
- 【107】『東洋文庫近代中国研究室邦文図書目録』（1962年12月現在）。近代中国研究センター編，1963年，204頁。J.
- 【108】『東洋文庫近代中国研究室邦文図書目録』（1963年1月～1965年3月）。近代中国研究センター編，1965年，165頁。J.
- 【109】『東洋文庫近代日本関係文献分類目録』（1961年3月現在）。東洋文庫近代日本研究室編，1961・62年。J.
- 【110】『霞山会館図書室図書分類目録』（1937年9月現在）。霞山会館編，1938年，168・26・50頁。JCW
- 【111】『霞山会館図書室増加図書分類目録』（1937年10月～1939年12月）。霞山会館編，1940年，114・16・33頁。JCW.
- 【112】『山口高等商業学校東亜関係図書目録：和漢書之部』（1941年10月現在）。山口高等商業学校図書課・東亜経済研究所共編，1942年，2冊。JC.
- 【113】Ichiro Shirato. "Japanese sources on the his-



tory of the Chinese Communist movement; an annotated bibliography of materials in the East Asiatic Library of Columbia University and the Division of Orientalia, Library of Congress." New York, 1953, 69p. J.

- 【114】 John Young. "The Research activities of the South Manchurian Railway Company, 1907~1945; a history and bibliography." New York, 1966, 682p. J.
- 【115】 "Checklist of archives in the Japanese Ministry of Foreign Affairs, Tokyo, Japan, 1868~1945." Washington, 1954, 262p. J.
- 【116】 "Selected Japanese Army and Navy Archives, 1868~1945." J.

さて、以上のもので、書名なり論文掲載雑誌名がわかったら、今度はそれが何処にあるか探さなければならぬ。近代中国関係あるいは中国関係だけの蔵書目録はほとんどないから、国立国会図書館や東大、京大、早大、慶大など大大学図書館の蔵書目録で検索することになるが、東洋文庫に蔵されている近代中国関係の邦文図書だけの目録としては、【107】【108】がある。【109】は日本関係の目録だが、これも参考にすべきであろう。【110】【111】【112】は霞山会館、山口高商の蔵書目録である。両機関はともに戦前に中国関係の蔵書の豊かなことで知られたところ、今はないが、それぞれ愛知大学、山口大学に受けつがれているから、この目録にみられるものは、大てい、両大学のいずれかで見られるはずである。【113】はコロンビア大学にある中共関係日本文献の目録。【114】は満鉄出版物のユニオン=カタログ。日本の国立国会図書館、東洋文庫、東大図書館など25機関、アメリカの議会図書館など15機関の蔵書が含まれている。【115】【116】は、アメリカがフィルムにおさめた外務省、陸海軍省文書の目録で、この中に含まれている文書には、近代中国研究に役立つものが少くない。

雑誌の所在も、各図書館の目録について調べればよい。雑誌の所在を探すのに便利なのは、【105】と【106】。【105】は日本の大学に所蔵されている邦文雑誌のユニオン=カタログ。また、東洋文庫、東大東洋文化研究所、京大人文学研究所には東洋関係の雑誌が豊富であるが、【106】はこの三機関に蔵されている雑誌の目録。

XI 目録の目録

- 【117】『近代中国関係文献目録彙編』(1945~1960)。東洋文庫近代中国研究委員会編、1960年、44頁。J C W.
- 【118】Centre for East Asian Cultural Studies. "Bibliography of Bibliographies of East Asian Studies in Japan." Tokyo, 1964, 190p. J. T.
- 【119】『アジアに関する書誌目録：人文科学・社会科学』(1957年度)。東洋文庫東洋学インフォメーション・センター編、1960年、47頁。J.
- 【120】『国内刊東方誌目録：戦後の部』(1945.8~1958.3)。鳥居靖編、36頁。J.
- 【121】『戦後日本雑誌総覧：社会科学の部』。清和堂出版部編、1963年、161頁。J.
- 【122】『日本雑誌総覧』(1963)。出版ニュース編集部編、1963年、398頁。J.
- 【123】『「日本の参考図書」に現われた年鑑類細目』。日本図書館協会編、1967年、73頁。J.

以上、【116】まで、主として文献目録をあげてきたが、実は、これは東洋文庫でみられるものにほぼ限ったので、ほんの一部にすぎない。このほかにどんなものがあるかを見ようと思うなら、【118】がいい。もし、近代中国に関する文献目録だけでいいというなら、【117】もよからう。

なお【120】【121】【122】は、日本の雑誌にどんなものがあるか、その出版社はどこにあるか、などを調べる道具である。

解放前
日本の
目撃し
えたこ
得でき
が、著
べられ
ける関
あると
決する。

[5240]

者が19
の回想
者のあ
58年10
とを、
、二度
に感動
詳しく
た重慶
たこと
高い八

[5210]

「日本
北・南
を視察
国で出さ
国におけ
述べたも
書を紹介
学校か
業余学
宮のよう
ゆると
ている。

泰淳

[7573]



中共党史関係資料目録 (Ⅰ)

徳田教之

大衆指導

- 略談走群衆路線 民運委会編
- 通過群衆路線掌握政策之經驗總結 中共魯中三分区
- 領導方法文選 李伝緒編 冀魯予書店
 - 論領導与檢查 (録自「斯大林全集」) 密切与群衆联系 (録自「聯共党史結束語」) 群衆觀點与群衆路線 (劉子久) (録自「關於學習問題給淮北区党委的信」) 表揚英雄模範：選舉勞動英雄与模範工作者 (録自「採用新的組織形式与新的工作方式」解放日報社論)・表揚模範 (録自「冀魯予分局關於表揚模範的指示」) 貫徹表揚模範的領導方法 (録自「冀魯予分局關於貫徹表揚模範与群英選舉辦法的指示」)
 - 領導与群衆結合 (張霖之) (録自「站穩脚跟，放下圈子」) 貫徹大胆放手 (万里) (録自「貫徹大胆放手的領導方法」) 貫徹「從群衆中集中起来，回到群衆中堅持下去」的領導方法 (春蘭) 齊浜县委活動份子大会換了走群衆路線的領導方法 (春蘭)
 - 渭縣發動群衆中的領導方法 (張華) 學習李守誠的領導方法 (李春蘭) (録自「觀城生產運動中的幾個問題」) 孟祥英的工作方法 (涉縣婦救會) 走群衆路線的教學方法 (耿一山)
- 關於領導方法問題的意見 中共淮南路东天長县委組織部
- 領導方法的決定 中共中央政治局編 民国32年
- 領導問題的決定 中共中央政治局編
- 領導作風 冀中区党委宣傳部選 1946年4月
 - 中央關於領導方法的決定 (1943年6月1日)
- 學習領導作風問題大会紀錄 中共地委編 民国34年
- 有事和群衆商量 陳伯達 民国36年
- 領導作風 第十八集團軍總政治部宣傳部編 1946年1月
 - 前言 怎樣打通幹部思想 怎樣實行群衆路線
 - 怎樣動員漁民大衆 劉銘基 重慶 民国27年
 - 陝甘寧辺区の民衆運動 魯芒 漢口 1938年
 - 抗戰与民衆運動 沙千里 生活書店 民国27年7月
 - 陝甘寧辺区群衆運動特輯 中央調查統計局編 民

国28年

- 確立中心与推動全般的幾個問題：在抗日民主根拠地開闢群衆工作的經驗之二 喻屏 蘇皖辺区第二次活動份子大会翻印 1945年5月31日
- 關於改善民生發動群衆確立群衆優勢問題的認識 秋季群衆運動綱領 力量的使用和配合問題 發展組織 整理組織提拔幹部 群衆運動策略問題 開展辺区群衆工作問題
- 大刀濶斧的工作方式 喻屏 蘇皖辺区第二次活動份子大会翻印 1941年6月1日
- 工委關於群衆工作問題的指示 1943年2月
- 群衆工作參攷文件 劉玉柱 秋運通訊社 1943年
- 群衆工作參攷文件 (2)：1943年邳睢銅秋運總結 劉玉柱
 - 秋收群衆運動發展過程 社会各階級在群衆運動過程中顯著的變化 秋季群衆運動的幾種經驗
- 嶧勝一年來群運總結 劉向一・劉星 1944年
- 淮北五年群衆工作總結 劉瑞竜講 中共淮北区党委印 1944年12月6日
 - 五年來群衆運動的檢討 改善民生与組織生產的具体經驗：階級・土地・生產 幾個基本問題：群衆路線
- 在辺区抗聯擴大執委会 上關於反攻以來辺区群運工作的初步檢查及1946年辺区群運的方針与任務的報告 馬輝之 1946年2月9日
- 群衆工作文件 (1) 中共華中分局民運部編 1946年2月
 - 華東局關於放手發動新解放区群衆工作指示 (1946年1月10日) 華中分局關於進一步放手發動群衆的指示 (1945年11月29日) 努力發動解放区群衆 (解放日報1月9日) 加強新解放区工作 (太行新華日報) 論一九四六年解放区生產運動要超過已往任何一年 (解放日報) 減租与生產 (解放日報社論) 歡送群衆工作隊開入新解放区執行大胆放手發動群衆的任務 (山東大衆日報社論) 如何確立大胆放手發動群衆的領導思想 (山東大衆日報) 如何具体執行大胆放手發動群衆的方針 (山東大衆日報) 新解放区工人的英勇鬪爭 (解放日報社論) 抓緊時間進一步發動群衆 普遍發動群衆檢舉和懲治漢奸 (華中新華日

1) こ
を旅
した
2) 旅
「彙
中国
3) 解
同行
4) 中
を記
5) 排
プの
6) 凶
地、
であ
7) こ
ので
—
目で視
東
憲法
速記を
の20頁
ヶ月の
行った
法調査
中国の
れてい
する日
お隣り
東
中外
かまと
—新
長横田
の附録



報) 切實減租查租準備大生產 (華中新華日報社論) 大生產運動的準備工作做得怎樣了 (華中新華日報) 中共熱河省委關於發動群眾指示 去冬以來太行減租基本經驗 去冬平順縣查減運動總結 如何展開新区職工運動 嵐縣解放後發動群眾中的幾個問題 垣曲發動群眾的經驗 (興林)

群眾工作文件 (2) 浜海区黨委宣傳部編印 1946年5月

華東局關於目前山東群眾工作的幾項決定 減租減息為一切工作的基礎 (解放日報) 減租減息與發展生產 (薛暮橋) 如何使群眾運動向前推進一步 介紹兩個減租範例 記石塘減租仲裁會議 (華中通訊) 老解放區應以領導生產為主要任務 論陝甘寧邊區生產運動前進一步 (解放日報) 如何使生產超過以往任何一年 抓緊時間加緊春耕 太行冬季生產概況 泉童頭大生產的思想準備和組織準備 放手發動群眾必須認識新解放區的特點 長治放手發動群眾的經驗 (宗瑛, 太行通訊) 開展夏坡工作的經驗 目前工運基本方針是什麼 省總工會關於工運基本方針的決定 (山東省總工會)

中共群眾工作之研究 中聯出版社編印 民國35年11月

深入發動群眾的經驗文摘 中共冀魯豫區黨委宣傳部編印 1946年6月30日

長治深入發動群眾經驗 (王宗琪·王靜) 和順東閩減租轉入生產的經驗 (劉江·丁三·乃和) 武安深入群運的經驗 (庭棟) 潞城深入運動取得四點經驗 分配果實不公, 脫離群眾, 東火村幹部迅速糾正重分果實, 運動深入 (立峯·宗唐) 新区深入群運中的幾個問題 (趙正晶) 長治目前分三類村深入群眾運動 (逢順)

中陽縣冀家峪的群眾是怎樣發動起來的 中共晉綏分局印 民國35年5月11日

滑縣群眾是如何發動起來的 趙紫陽 中共中央冀魯豫分局印 中共華中八地委翻印 1946年5月26日

群運通訊 太岳區黨委編 民國35年

努力發動解放區群眾 解放日報社 民國35年

午季群眾工作會議決議 八地委編 1946年

群運參攷材料 冀魯豫日報社 蕭縣 1946年

群眾工作文件 中共華中分局民運部編 1946年

關於目前群眾工作 1948年7月26日

群運材料

站穩腳跟放下圈子 (張霖之) 重新認識反新貴鬪爭 (冀魯豫日報社編) 繼續貫徹大胆放手的領導方法 (万里) 滑縣查減運動簡報 (紀奎奎) 濮縣的農

民運動及組織領導的經驗 (黃文) 滑縣青年工作的幾點經驗 單縣群運中幾個問題的研究 (魏力平) 南旺接敵區發動群眾的幾點經驗 (李哲) 冀魯豫冀南行署關於減租增佃中幾個問題的決定

關於滑縣三區問題的教訓

省委對目前學生運動的決議

群眾工作講授提綱 抗大教務處編

抗日群眾運動講義 現代中學編

群眾運動講授大綱 抗大教務處編

為什麼要放手發動群眾 : 在群眾工作會議上報告之一部 鄧子恢

關於糾正群眾工作的錯誤

關於黨與群眾工作的新策略

怎樣發動群眾 四地委宣傳部編

聯繫群眾工作在徵收中進行 中共編

龐村發動群眾的教訓 冀晉區黨委研究室編

發動群眾的指示 中共中央編

中共之民衆運動 中共民運編

奸黨魯中區黨委對貫徹執行華南局關於放手發動新解放區群眾指示的指示 魯中區黨委編

深入發動羣衆的經驗 中共冀魯豫區黨委宣傳部編印 民國35年

華中分局關於進一步發動群眾的指示

對貫徹執行「華南局關於放手發動新解放區群眾指示」的指示 魯中區黨委

縣委關於今冬群眾工作的決定 12月20日

共匪反動文件彙編 (6: 社會運動)

<青年運動> 抗戰中的青年運動 (陝甘寧邊區·晉察冀·晉東南, 民國27·28年) 邊區青年運動中的一個基本問題 (民國33年5月) <婦女運動>

關於陝甘寧邊區婦女運動概況的報告 (民國27年5月) 抗戰時期的婦女運動 (民國29年) 陝甘寧邊區各界婦女聯合會直屬縣婦聯主任聯席會議案 中共中央婦委關於目前婦女運動的方針和任務的指示信 中共中央書記處關於開展婦女工作的決定 (民國28年2月)

陝甘寧邊區各界婦女聯合會簡章 陝甘寧邊區禁止婦女纏足條例 (民國28年8月) <婚姻問題> 陝甘寧邊區婚姻條例 (民國28年4月) 陝甘寧邊區婚姻通則 (1946年4月) 修正陝甘寧邊區婚姻暫行條例 (民國33年3月) 陝甘寧邊區抗屬離婚處理辦法 (民國32年1月) <整風運動> 中共中央三風報的決定 (1942年4月) 晉西北整頓政風 <精兵簡政運動> 陝甘寧邊區政府為實行精兵簡政給各縣的指示信 (民國30年12月) 陝甘寧邊區政府系統第二次精兵簡政政策 (民國31年6月) <擁政愛

民運動及組織領導的經驗 (黃文) 滑縣青年工作的幾點經驗 單縣群運中幾個問題的研究 (魏力平) 南旺接敵區發動群眾的幾點經驗 (李哲) 冀魯豫冀南行署關於減租增佃中幾個問題的決定

關於滑縣三區問題的教訓 省委對目前學生運動的決議 群眾工作講授提綱 抗大教務處編 抗日群眾運動講義 現代中學編 群眾運動講授大綱 抗大教務處編

為什麼要放手發動群眾 : 在群眾工作會議上報告之一部 鄧子恢 關於糾正群眾工作的錯誤 關於黨與群眾工作的新策略 怎樣發動群眾 四地委宣傳部編 聯繫群眾工作在徵收中進行 中共編 龐村發動群眾的教訓 冀晉區黨委研究室編 發動群眾的指示 中共中央編 中共之民衆運動 中共民運編

奸黨魯中區黨委對貫徹執行華南局關於放手發動新解放區群眾指示的指示 魯中區黨委編 深入發動羣衆的經驗 中共冀魯豫區黨委宣傳部編印 民國35年 華中分局關於進一步發動群眾的指示 對貫徹執行「華南局關於放手發動新解放區群眾指示」的指示 魯中區黨委 縣委關於今冬群眾工作的決定 12月20日 共匪反動文件彙編 (6: 社會運動)

<青年運動> 抗戰中的青年運動 (陝甘寧邊區·晉察冀·晉東南, 民國27·28年) 邊區青年運動中的一個基本問題 (民國33年5月) <婦女運動> 關於陝甘寧邊區婦女運動概況的報告 (民國27年5月) 抗戰時期的婦女運動 (民國29年) 陝甘寧邊區各界婦女聯合會直屬縣婦聯主任聯席會議案 中共中央婦委關於目前婦女運動的方針和任務的指示信 中共中央書記處關於開展婦女工作的決定 (民國28年2月) 陝甘寧邊區各界婦女聯合會簡章 陝甘寧邊區禁止婦女纏足條例 (民國28年8月) <婚姻問題> 陝甘寧邊區婚姻條例 (民國28年4月) 陝甘寧邊區婚姻通則 (1946年4月) 修正陝甘寧邊區婚姻暫行條例 (民國33年3月) 陝甘寧邊區抗屬離婚處理辦法 (民國32年1月) <整風運動> 中共中央三風報的決定 (1942年4月) 晉西北整頓政風 <精兵簡政運動> 陝甘寧邊區政府為實行精兵簡政給各縣的指示信 (民國30年12月) 陝甘寧邊區政府系統第二次精兵簡政政策 (民國31年6月) <擁政愛

民運動及組織領導的經驗 (黃文) 滑縣青年工作的幾點經驗 單縣群運中幾個問題的研究 (魏力平) 南旺接敵區發動群眾的幾點經驗 (李哲) 冀魯豫冀南行署關於減租增佃中幾個問題的決定

關於滑縣三區問題的教訓 省委對目前學生運動的決議 群眾工作講授提綱 抗大教務處編 抗日群眾運動講義 現代中學編 群眾運動講授大綱 抗大教務處編 為什麼要放手發動群眾 : 在群眾工作會議上報告之一部 鄧子恢 關於糾正群眾工作的錯誤 關於黨與群眾工作的新策略 怎樣發動群眾 四地委宣傳部編 聯繫群眾工作在徵收中進行 中共編 龐村發動群眾的教訓 冀晉區黨委研究室編 發動群眾的指示 中共中央編 中共之民衆運動 中共民運編 奸黨魯中區黨委對貫徹執行華南局關於放手發動新解放區群眾指示的指示 魯中區黨委編 深入發動羣衆的經驗 中共冀魯豫區黨委宣傳部編印 民國35年 華中分局關於進一步發動群眾的指示 對貫徹執行「華南局關於放手發動新解放區群眾指示」的指示 魯中區黨委 縣委關於今冬群眾工作的決定 12月20日 共匪反動文件彙編 (6: 社會運動)

<青年運動> 抗戰中的青年運動 (陝甘寧邊區·晉察冀·晉東南, 民國27·28年) 邊區青年運動中的一個基本問題 (民國33年5月) <婦女運動> 關於陝甘寧邊區婦女運動概況的報告 (民國27年5月) 抗戰時期的婦女運動 (民國29年) 陝甘寧邊區各界婦女聯合會直屬縣婦聯主任聯席會議案 中共中央婦委關於目前婦女運動的方針和任務的指示信 中共中央書記處關於開展婦女工作的決定 (民國28年2月) 陝甘寧邊區各界婦女聯合會簡章 陝甘寧邊區禁止婦女纏足條例 (民國28年8月) <婚姻問題> 陝甘寧邊區婚姻條例 (民國28年4月) 陝甘寧邊區婚姻通則 (1946年4月) 修正陝甘寧邊區婚姻暫行條例 (民國33年3月) 陝甘寧邊區抗屬離婚處理辦法 (民國32年1月) <整風運動> 中共中央三風報的決定 (1942年4月) 晉西北整頓政風 <精兵簡政運動> 陝甘寧邊區政府為實行精兵簡政給各縣的指示信 (民國30年12月) 陝甘寧邊區政府系統第二次精兵簡政政策 (民國31年6月) <擁政愛

民運動及組織領導的經驗 (黃文) 滑縣青年工作的幾點經驗 單縣群運中幾個問題的研究 (魏力平) 南旺接敵區發動群眾的幾點經驗 (李哲) 冀魯豫冀南行署關於減租增佃中幾個問題的決定

關於滑縣三區問題的教訓 省委對目前學生運動的決議 群眾工作講授提綱 抗大教務處編 抗日群眾運動講義 現代中學編 群眾運動講授大綱 抗大教務處編 為什麼要放手發動群眾 : 在群眾工作會議上報告之一部 鄧子恢 關於糾正群眾工作的錯誤 關於黨與群眾工作的新策略 怎樣發動群眾 四地委宣傳部編 聯繫群眾工作在徵收中進行 中共編 龐村發動群眾的教訓 冀晉區黨委研究室編 發動群眾的指示 中共中央編 中共之民衆運動 中共民運編 奸黨魯中區黨委對貫徹執行華南局關於放手發動新解放區群眾指示的指示 魯中區黨委編 深入發動羣衆的經驗 中共冀魯豫區黨委宣傳部編印 民國35年 華中分局關於進一步發動群眾的指示 對貫徹執行「華南局關於放手發動新解放區群眾指示」的指示 魯中區黨委 縣委關於今冬群眾工作的決定 12月20日 共匪反動文件彙編 (6: 社會運動)

<青年運動> 抗戰中的青年運動 (陝甘寧邊區·晉察冀·晉東南, 民國27·28年) 邊區青年運動中的一個基本問題 (民國33年5月) <婦女運動> 關於陝甘寧邊區婦女運動概況的報告 (民國27年5月) 抗戰時期的婦女運動 (民國29年) 陝甘寧邊區各界婦女聯合會直屬縣婦聯主任聯席會議案 中共中央婦委關於目前婦女運動的方針和任務的指示信 中共中央書記處關於開展婦女工作的決定 (民國28年2月) 陝甘寧邊區各界婦女聯合會簡章 陝甘寧邊區禁止婦女纏足條例 (民國28年8月) <婚姻問題> 陝甘寧邊區婚姻條例 (民國28年4月) 陝甘寧邊區婚姻通則 (1946年4月) 修正陝甘寧邊區婚姻暫行條例 (民國33年3月) 陝甘寧邊區抗屬離婚處理辦法 (民國32年1月) <整風運動> 中共中央三風報的決定 (1942年4月) 晉西北整頓政風 <精兵簡政運動> 陝甘寧邊區政府為實行精兵簡政給各縣的指示信 (民國30年12月) 陝甘寧邊區政府系統第二次精兵簡政政策 (民國31年6月) <擁政愛

民運動及組織領導的經驗 (黃文) 滑縣青年工作的幾點經驗 單縣群運中幾個問題的研究 (魏力平) 南旺接敵區發動群眾的幾點經驗 (李哲) 冀魯豫冀南行署關於減租增佃中幾個問題的決定

關於滑縣三區問題的教訓 省委對目前學生運動的決議 群眾工作講授提綱 抗大教務處編 抗日群眾運動講義 現代中學編 群眾運動講授大綱 抗大教務處編 為什麼要放手發動群眾 : 在群眾工作會議上報告之一部 鄧子恢 關於糾正群眾工作的錯誤 關於黨與群眾工作的新策略 怎樣發動群眾 四地委宣傳部編 聯繫群眾工作在徵收中進行 中共編 龐村發動群眾的教訓 冀晉區黨委研究室編 發動群眾的指示 中共中央編 中共之民衆運動 中共民運編 奸黨魯中區黨委對貫徹執行華南局關於放手發動新解放區群眾指示的指示 魯中區黨委編 深入發動羣衆的經驗 中共冀魯豫區黨委宣傳部編印 民國35年 華中分局關於進一步發動群眾的指示 對貫徹執行「華南局關於放手發動新解放區群眾指示」的指示 魯中區黨委 縣委關於今冬群眾工作的決定 12月20日 共匪反動文件彙編 (6: 社會運動)

民運動> 陝甘寧辺区留守部隊の擁政愛民 晋綏辺
 区の擁愛模範安 駿連 (1944年 8月) <生産運
 動> 陝甘寧辺区政府命令 (民国32年 2月) 陝甘
 寧辺区政府建設庁指示信 (民国32年10月) 陝甘寧
 辺区労働英雄与模範生産工作者大会及其代表の選挙
 辦法 (民国32年10月)

陝北の群衆動員 楊実編 揚子江出版社印行
 關於特区群衆工作 (羅邁) 辺区各郷各区民政庁選
 挙運動の総結 (里夫) 特区抗戰動員片断: 工作経
 験介紹 陝甘寧特区抗日自衛軍組織条例

保属団部工作検査の報告 河北団省委編 民国23年
 民運工作指示 特委会編著 民国27年
 群衆工作指南 毛沢東等著 七七出版社 民国28年
 民運工作 夏県中心区委 1939年 3月 2日
 關於党与群衆工作的新策略 中共中央編 中統局
 編印 民国29年
 冀中共党在安平県文民運団体情形 鄭之中 民国
 30年
 根拠地建設与群衆工作 李雪峰 皖南月刊出版社
 民国30年
 群衆工作問題的指示 工委編 民国32年
 魯南八個月群衆運動総結暨今後工作 中共魯南区
 党委編 民国34年

高崗論集
 關於工作作風問題 (民国34年 1月 9日) 時時刻刻
 為老百姓与利除弊 (民国34年 1月 12日) 合作社要
 為群衆辦事 從生産線上開展婦女運動 党在春耕運
 動中要解決的三個問題 春耕領導的兩個典型

在群衆運動中發展党 中共冀魯予区党委宣傳部編
 民国35年

怎樣組織群衆大多数 魯中三分区編 民国35年
 猛烈開展群衆優抗運動 冀中行政公署編 民国35年
 中共群衆工作之研究 中聯出版社編 民国35年
 怎樣組織起來 東北行政委員会編 民国36年
 為健全与發展組織而奮闘: 滬市一年來組織工作総結
 和今後的努力方針 民国37年 2月 行動叢書之一

武装群衆工作 保属中心地委編
 当前群衆運動問題之決定 中共晋冀魯予辺区政府編
 共匪群運通知 新華社魯南分社等著
 共党在重慶之民運概況專報 俞成一編
 一二三月份民運工作計劃 湖西地委編
 鞏固百万民衆組織遊撃根拠地の群衆基礎 公犧総
 部編
 反帝反日群衆組織 保属地委編

群衆工作的技術問題 新四軍第一師第一旅政治部編
 印
 群衆自衛運動 (画冊) 二地委宣傳部編
 民衆運動提綱 民運部編
 怎樣開展群衆的懲辦漢奸運動 曹荻秋編
 關於今後群衆運動中執行政策問題的指示 地委会
 整頓群衆紀律動員大綱 鄂南兵団指揮部編
 各抗日根拠地群衆鼓動工作指示 中共中央宣傳部
 編
 民運工作報告 牛蔭冠
 關於党与群衆工作的新策略 統一出版社編
 抗日群衆運動 現代中国編
 工作中的民主作風 中共編
 關於進一步發動群衆的指示 中共華中分局編
 華中婦女会对全区婦女工作的指示
 淮北党第八分局宿西県委对群衆工作的指示
 県委对民運工作的指示
 關於今月群衆運動中執行政策問題的指示 地委会
 開展群衆運動必須同時加強党的建設 曾如柏
 「婦反」要深入勞動婦女中去 大雲
 光山暴動詳情及其教訓 区党委研究室
 關於相愛及工作指示
 組織工作的会報内容
 華中分局關於進一步開展婦女運動的指示
 中共晋冀魯予辺区政府幹部会 議对当前群衆運動問
 題決定
 華中党総工聯会關於工資和工会工作的指示
 工作人員紀律手冊 熱西農会籌備委編
 二流子的改造 辺区政府編
 突撃工作報告 田徒
 誰是朋友誰是敵人 中共華中五地委編
 領導新区民工工作經驗 辺区政府編
 抗戰与農民: 在漣水全県第一次農民代表大会上的報告
 劉瑞竜 1941年 6月
 <附録> 農救会工作綱領草案 農救会組織章程
 抗日自衛隊組織条例 青年救国会組織章程 抗戰与
 農民提綱 兒童団組織章程

抗日戦争与農民運動: 在二師第一次民運工作會議上
 的報告 鄭位三 1941年 9月
 共産党与農民: 農救教材 1942年10月
 什麼是農救会 怎樣做好農救会員 共産党与農民
 民族革命統一戰綫中的農村工作 辺区農救会編
 抗日農民運動講話 抗日農救会編
 毛沢東与農民運動 星星

Oct.
 中国土
 新土地
 36年度
 冀中区
 委
 告農民
 潮汕区
 三
 關於土
 予
 在老区
 民
 關於目
 冀
 平分土
 土地問
 湖
 給
 網
 毛匪進
 府
 論新解
 關於土
 土地政
 中共最
 土地改
 陝甘寧
 土地租
 土地法
 陝甘寧
 減租減
 編
 澈底平
 貧農会
 三查運
 晋察冀
 土地改
 給新解
 土地改
 共匪晋
 農民問
 浙南農
 共匪土
 <江



海陸豐農民運動 鍾貽謀 広州 広東人民出版社
1957年
劃分階級成份的參攷材料 黃岡县委編
熱河農村的各個階級 新華書店編
怎樣分析階級 蘇維埃边区政府編
農村的階級劃分 皖西区党委編
論農村階級關係的分析 村夫
怎樣劃分農村各階層 張文
關於全国史荒秋收鬪爭与我們的策略的決議 中共
中央編 民国20年
怎樣動員農民大衆 陳毅 上海雜誌公司 1937年
農村工作問題討論提綱 中共南委編 民国26年
農村工作問題討論提綱 閩西南軍政委編 民国26年
怎樣辦農村工作幹部訓練班 任洵 中外出版社
1938年
農村組織講話 陶陶然 生活書店 民国27年4月
農村工作問題參攷材料 山海關編 民国36年
奸匪清算鬪爭之分析 溧陽县政府編 民国37年
滿州柳河全縣代表大會雇農鬪爭綱領 滿州柳河全
縣代表大會編
敵後農村工作大綱 孫西岐
農民救国会組織章程草案 予鄂边区農救会編
怎樣接近農民 曾華
秋收減租群眾運動的講話提綱 黃岡秋收訓練班編
農民救国会宣傳要點 中共農救会
農抗調查表 中共县委編
貧農会章程 中共茶陵县委編
佃權独立的運動

統一戰線

論反帝國主義的統一戰線和中国民族解放運動 陳
紹禹 民国25年
聯合戰綫論 吳敏·漢夫 1936年
怎樣在中国建立救亡聯合戰綫 吳培敏 1936年
論抗日民族統一戰綫諸問題 1937年
中国共產党中央給中国国民党三中全会電(2月10日)
鞏固国内和平準備对日抗戰(洛甫, 1937年3月3日)
論抗日民族統一戰綫諸問題(凱豐, 1937年12月8日)
擁護中共中央2月10日的通電(亮平, 2月14日)
關於西安事变和平解決之意義及中央致国民党三中全
会電宣傳解釋大綱(2月15日) 關於党中央給国民党
三中全会通電的(問題与答覆)(3月13日) 中
日問題与西安事变(史·毛, 3月1日)

關於抗日統一戰綫的幾個問題 中共閩西南委员会編
民国26年
論抗日民族統一戰綫諸問題 洛甫等著 民国26年
抗日民族統一戰綫論 侯外廬 民国27年7月
国共合作抗日文献
中共為抗日救国告全体同胞書(1935年8月1日)
中共關於目前政治形勢与党的任務決議(1935年12月
25日) 中国蘇維埃政府召集全国抗日救国代表大會
通電(1936年2月21日) 中国蘇維埃政府停戰議和
一致抗日通電(1936年5月5日) 中国共產党致中
国国民党書(1936年8月25日) 中共關於抗日運動
的新形勢与民主共和国的決議(1936年9月17日)
全国各界救国聯合会宣言(1936年5月1日) 沈鈞
儒等團結禦侮的幾個基本条件最低要求(民国25年7
月15日) 中共關於綏遠抗戰通電(1936年12月1日)
張學良·楊虎城等双12通電 中共對於西安事变通電
(1936年12月19日) 中国国民党三中全会對於西安
事变的決議(1937年2月18日) 中共給国民党三中
全会電(1937年2月10日) 中国国民党三中全会根
絕赤禍案的決議(1937年2月21日) 中国国民党三
中全会宣言(民国26年2月22日) 蔣委員長在三中
全会後的談話(1937年2月24日) 中共告全体同志
書(1937年4月15日) 中共為日軍進攻蘆溝橋通電
(1937年7月8日) 蔣委員長為蘆溝橋事件談話
(1937年7月17日) 中国共產党為日軍進攻華北第
二次宣言(1937年7月23日) 蔣委員長重申政府方
針談話(1937年7月29日) 中共為公佈国共合作宣
言 蔣委員長对中国共產党宣言的談話 宋慶齡女士
对国共統一運動感言 蔣委員長告国民書(1937年12
月17日) 中共对時局宣言(民国26年12月25日)
中共抗日救国十大綱領 軍委会第六部抗敵宣傳方針
中山学社对時局七項主張

抗日民族統一戰綫指南(1) 中共中央委员会著
抗大訓練部印
抗日民族統一戰綫教程
抗日民族統一戰綫指南(2) 解放社 1938年4月
中共為日軍進攻蘆溝橋通電(1937年7月8日) 中
共為日本帝國主義進攻華北第二次宣言(1937年7月
23日) 中共中央關於目前形勢与党的任務的決定
(1937年8月25日) 為動員一切力量爭取抗戰勝利
而鬪爭: 中共關於目前形勢与任務宣傳鼓動提綱(民
国26年8月15日) 中共為公佈国共合作宣言(1937
年9月22日) 7月8日紅軍將領為日寇進攻華北致
蔣委員長等電 7月8日紅軍將領為日寇進攻華北致
宋哲元等電 第八路軍總指揮朱德副總指揮彭德懷就
職通電(8月25日) 日寇侵略的新階段与中国人民



- 鬭争の新時期(王明) 論平津失守後の形勢(洛甫, 1937年8月2日) 国共兩党統一戰綫成立後中国革命的迫切任務(毛沢東, 1937年9月2日) 实行对日抗战(朱德, 1937年7月15日) 論抗日民族革命战争的持久性(洛甫, 1937年9月18日) 毛沢東与英国記者貝特蘭之談話(1937年10月25日) 轉變中的時局(洛甫, 1937年10月28日) 一切為着争取抗日战争的勝利(凱豐, 1937年8月30日) 論全面的全民族抗战(凱豐, 1937年9月8日) 怎樣争取全国抗战的勝利(李富春) 論目前救亡運動中的幾個迫切問題(凱豐, 1937年10月19日) 争取持久抗战勝利的先决問題(彭德懷) 平型關戰鬭的經驗(林彪, 1937年10月17日)
- 抗日民族統一戰綫指南(3) 解放社 1938年5月 中国共產党对時局宣言(民国26年12月25日) 鞏固国共合作争取抗战勝利(洛甫, 1937年12月21日) 陳紹禹(王明)先生与美国合眾社記者白得恩先生的談話 毛沢東先生与延安新中華報記者其光先生的談話 挽救時局的關鍵(陳紹禹, 1937年12月27日) 蘇聯社会革命20週年与中国人民的对日抗战(王明, 1937年11月) 毛沢東先生与合眾社記者王公達先生的談話 怎樣進行持久抗战?(周恩来, 1938年1月7日) 抗战形勢与抗战前途(博古, 1937年12月) 八路軍本年来抗战的經驗与教訓(朱德) 怎樣渡過抗战的困難時期(任弼時, 1938年1月22日) 戰時民運工作的八個基本原則(洛甫, 1938年1月16日) 南方三年遊擊战争經驗對於当前抗战的教訓(項英)
- 抗日民族統一戰綫指南(4) 解放社 1939年4月 毛沢東在紀念孫總理逝世13週年及追悼抗敵陣亡將士大会上的演說詞(3月12日) 今年的五一節与中国工人(陳紹禹) 馬克思与中国(凱豐) 三月政治局會議的總結(陳紹禹, 3月11日) 國際主義与革命的民族主義(博古, 4月25日) 答覆子健先生的一封公開信(陳·周·秦, 4月28日) 国民党臨時代表大会的成功(洛甫, 1938年4月16日) 論目前中国青年運動的任務(凱豐) 論青年的修養(洛甫, 4月22日) 抗日遊擊战争的戰略問題(毛沢東)
- 抗日民族統一戰綫指南(5) 1939年4月 讀了「張國燾敬告国人書」之後(洛甫, 1938年6月7日) 抗战中的宣傳工作(凱豐, 1938年5月16日) 八路軍抗战的一週年(朱德) 堅持華北抗战中的武装部隊(劉少奇) 論華北正規戰的基本教訓与遊擊战争的發展条件(林彪) 中国共產党17週年紀念(洛甫, 1938年6月17日) 毛沢東同志与世界学聯代表团之談話(延安, 1938年7月2日) 我們對於保衛武漢与第三期抗战問題底意見(陳·周·秦, 6月15日)
- 抗日民族統一戰綫指南(6) 1939年4月 我們對於国民参政会的意見(毛沢東等, 7月5日) 陳紹禹同志關於「擁護国民政府实施抗战建国綱領提案」底說明 論保衛武漢及其發展前途(周恩来, 民国27年7月6日) 国民参政会之觀感(林祖涵) 保衛武漢中動員民衆的幾個問題(凱豐) 一年余以来的華北抗战(朱德, 1938年8月29日) 全力援助中国人民反对日本侵略者的鬭争(「共產國際」7月号) 論目前抗战形勢(周恩来, 新華日報10月7, 8, 9日社論) 論抗日民族統一戰綫的發展, 困難及其前途(博古) 動員全体人民参加抗战(凱豐) 旧陰謀的新花樣(陳紹禹, 1月15日) 共同防共即滅亡中国(洛甫, 1939年2月3日) 回答破壞統一團結的陰謀(王稼祥, 民国28年2月7日) 論待人接物問題(洛甫, 1938年7月26日)
- 抗日民族統一戰綫指南(8) 1940年7月 在民族自衛戰最前綫的崗位上(洛甫) 論共產党的階級立場与民族立場的一致(洛甫, 1939年3月) 用国法制裁反動份子(毛沢東, 1939年8月1日) 周恩来同志關於平江慘案的談話 擁護真三民主義反对假三民主義(洛甫, 民国28年7月29日) 為完成中華民國的真統一而奮闘(洛甫) 粉碎敵「掃蕩」計劃堅持華北抗战
- 抗日民族統一戰綫指南(9) 1940年7月 中共中央關於目前形勢与党的任務的決定(民国28年10月10日) 毛沢東先生關於目前國際形勢与中国抗战的談話(9月1日) 第二次帝國主義战争講演提綱(毛沢東, 9月14日) 我們對於過去参政会工作和目前時局的意見(毛沢東等, 9月8日) 反对第二次世界帝國主義大戰(洛甫, 9月11日) 毛沢東先生与中央社記者劉先生, 「掃蕩報」記者耿先生, 「新民報」記者張先生的談話 蘇聯利益与人類利益的一致(毛沢東, 民国28年9月28日) 關於三民主義与共產主義(王稼祥, 民国28年9月25日) 鞏固敵後抗日根拠地(彭德懷, 民国28年7月6日) 目前国内外形勢与参政会第四次大会的成績(陳紹禹, 民国28年9月20日) 論抗战相持階級的形勢与任務(洛甫, 民国28年10月24日) 抗战以来的新四軍(項英)
- 抗日民族統一戰綫指南(10) 1940年8月 中共中央關於目前時局与党的任務的決定(民国29年2月1日) 促進憲政運動努力的方向(王明, 民国28年12月20日) 克服目前政局主要危險堅持華北抗战(彭德懷, 民国28年10月25日) 彭德懷同志对「新華日報」記者之談話(民国28年12月12日) 相



持階段中的形勢與任務 (毛澤東, 民國 29 年 2 月 1 日) 中國共產黨與革命戰爭 (王稼祥, 民國 29 年 1 月 15 日) 「為自由而戰! 為人權而戰!」 (康生, 民國 29 年 2 月 7 日) 抗戰以來中華民族的新文化運動與今後任務 (洛甫, 1940 年 1 月 5 日) 朱, 彭總司令等通電全國反對槍口對內進攻邊區 八路軍致林主席蔣委員長等電 (民國 29 年) 如何才能真正實行憲政 投降就是亡國 我們要求真正民主的憲政

統一戰綫下黨派問題 毛澤東等著 民國 27 年

統一戰綫與抗戰前途 毛澤東 漢口 自強出版社 民國 27 年

論抗日民族統一戰綫的發展困難及其前途 博古 民國 27 年

抗日民族統一戰綫的新發展 陳紹禹等著 民國 27 年

中國共產黨對於民族統一戰綫的主張 中共中央委員會等著 民國 27 年

論反帝統一戰綫問題 陳紹禹 1938 年 1 月

統一戰綫的組織和工作的指示 中共中央統戰部編 民國 29 年

關於統一戰綫的組織和工作的指示 中共中央統戰部編 江西省調查室翻印 民國 29 年 11 月 2 日

關於開展統一戰綫工作的指示 中共中央統戰部編 江西省調查室翻印 民國 29 年 8 月 15 日

統一戰綫的作風 民國 28 年 8 月

工作路綫與作風 (梁化之) 論機盟工作作風 (梁化之, 民國 28 年 4 月 2 日) 樹立統一戰綫的新工作方式 (一波) 工作作風的原則與運用 (宋劭文) 新作風如何建立 (侯振亞) 關於工作作風問題 (張文昂) 統一戰綫新形勢與民主主義作風 (則之) 論新形勢下的爭取問題 (延偉) 抗戰中的處人問題 (建平) 抗戰中的學習問題 (佩琮) 造成學習的風尚 (石賓)

抗日戰爭與抗日民族統一戰綫 蘇皖邊區行政學院編 民國 31 年

運用統一戰綫以前中共之簡史 民國 31 年 12 月

關於統一戰綫一年來我們的抗日救亡主張 中共中央委員會編 民國 36 年

統一戰綫下黨派問題

強固統一 (掃蕩報) 復興國民黨 (時代日報)

關於統一戰綫問題 林平講

統一戰綫紀錄 湯萬益錄

民族統一戰綫的基本原則 (上·下) 閩西南軍政委編

民族革命統一戰綫中的農村工作 邊區農教會編

中國抗日民族統一戰綫在目前階段的任務: 4 月 10 日在延安共產黨活動份子會報告提綱 毛澤東

軍事遊擊戰爭

關於創造陝甘寧新蘇區與遊擊隊的工作決議 中共陝西省委編 1932 年 6 月 1 日

關於河北高陽蠡縣遊擊戰爭的錯誤的批評 洛甫 1932 年 10 月 10 日

省委關於紅軍遊擊隊新勝利與衝破敵人圍剿的主要策略決議 中共陝西省委編 1932 年 3 月 7 日

開展遊擊運動創造渭北新蘇區決議 陝西省委編 1932 年 10 月 6 日

糾正單純軍事觀點 (節錄): 紅軍第四軍第九次代表大會決議案

中國工農兵會議 (蘇維埃) 第一次全國代表大會選舉條例

紅軍第四軍第九次代表大會決議案 毛澤東著 中共紅軍第四軍編

紅軍農民合作的規例 紅軍政治部編

第八路軍 朱德等著 抗戰出版社 1937 年 12 月 10 日

本論 <特載> 中國抗戰必勝論 (毛澤東) 論實行對日抗戰 (朱德) 爭取持久抗戰勝利的先決問題 (彭德懷) 關於十年來的中國共產黨 (洛甫)

中國共產黨為公佈國共合作宣言 蔣委員長對中國共產黨宣言的談話 對國共統一運動感言 (孫宋慶齡)

第八路軍行軍記 (1: 長征時代) 黃峯編 光明書局 民國 27 年 1 月

第八路軍行軍記 (2: 抗戰時代) 黃峯編

抗日的第八路軍 張國平編著 抗戰出版社 民國 27 年 1 月

<特載> 論抗戰必勝 (毛澤東) 論日本決不可怕 (朱德)

二萬五千里長征記 (上) 朱笠夫編著 上海 抗戰出版社 1938

<特載> 紅軍第一軍團西 31 中經過地點及里程一覽表

八路軍的戰爭經驗 民國 27 年 2 月

關於遊擊戰爭 在西戰場上 (徐盈) 山西抗戰的回憶 (任弼時) 我們怎樣打退太路的敵人 (劉伯承)

平型關戰鬪的前後 (蕭向榮) 彭德懷談前綫戰況 (陸詒, 1 月 19 日) 晉北民衆遊擊的發展 (陸詒, 1 月 25 日)

南方三年遊擊戰爭經驗對於當前抗戰的教訓 (項英) 八路軍半年來抗戰的經驗與教訓 (朱德)

晉北遊擊戰爭紀實: 第八路軍英勇的戰績 林彪等著 劉雲編 戰時出版社 1938 年 1 月

10
義刊
地
南海
予
邊
解放
軍解
日
晉
抗
日
蘇
和
浦
開
局
1942
部分
年度
的指
35年
35年
的決
: 七
共中
月)
民國
46年



朱總司令報告 朱德 民国27年
 西戰場的主將朱德 張塞青編 上海 民国27年
 論抗日遊擊戰爭 抗日戰爭研究会編 延安 民国27年
 我們怎樣打退敵人 朱德等著 民国27年
 抗日遊擊戰爭的戰術問題 抗日戰爭研究会編 解放社 1939年3月
 抗日遊擊戰爭(上) 朱德 新華日報館印 民国28年10月
 新四軍抗戰一年來經驗與教訓 項英 建社 民国28年3月 江南叢書之一
 八路軍文獻剪報 中央調查統計局編 民国28年
 論遊擊戰 朱德等著 民国28年
 抗戰三年來八路軍的英勇戰績 國民革命軍第18集團軍(八路軍)政治部編 八路軍軍政雜誌社 民国29年8月
 團結到底(毛澤東) 鞏固全國抗日軍的團結,爭取最後勝利(朱德) 渡過困難危險,爭取抗戰勝利(王稼祥, 民国29年7月1日) 為爭取抗戰最後勝利而奮鬥(朱德) 抗戰三年來八路軍的英勇戰績(蕭向榮)
 新四軍事件真相 時事問題研究社編 民国29年
 新四軍事件真相 范穎編著 奮鬥出版社印 民国30年3月
 新四軍事件之面觀 濤聲出版社 民国30年2月
 三年來的抗戰 彭德懷 東方出版社 民国30年4月
 新四軍叛變之前後 中央調查統計局編 民国30年
 人民武裝抗日自衛隊暫行條例 晉冀豫軍區編 民国30年
 論建軍工作 陳毅 民国30年
 抗戰中的八路軍 八路軍軍政雜誌社編 延安 民国31年
 國共兩黨抗戰成績比較 八路軍留守兵团政治部 1943年10月
 特種戰鬪 新四軍司令部編印 1943年2月
 講講八路 王子明 民国33年
 鞏固部隊工作的經驗 蘇中軍區政治部編 1945年11月
 對鞏固部隊工作的初步研究(鮑奇辰) 鞏固部隊工作介紹(山東濱海軍區一軍分區政治部) 對出身不同的新戰士幾個特點和對策的初步研究 鞏固俘虜幾點心理研究(嚴謝團·軒洪化) 鞏固解放來的新同志的兩個問題(王雲) 鞏固俘虜的經驗(朱啓祥) 怎樣轉變落後份子為積極份子(鄭訓) 對挑皮搗蛋份子的研究與領導(朱哲夫) 遊民成份的研究和領導「策兵」的領導方法介紹 鞏固歸隊戰士的方法介紹

行軍作戰時的新戰士工作(吳岱) 克服部隊中說怪話的幾點意見 戰士家屬問題研究 抗屬的招待工作
 論解放區戰場:7全大會報告 朱德
 共匪反動文件彙編(3:軍事) 國防部新聞局編印
 中共部隊之編制 中共部隊的監督管理與教育 軍事基本教育(張宗遜, 1944年7月) 三大技術的教育(張宗遜, 1944年) 發揚勇猛機動頑強的近戰教育(蕭勁光) 中共的戰略與遊擊戰術 一年來山東人民武裝之戰鬪與爆炸(朱則民, 1945年) 遵化擴軍工作經驗(冀光, 1947年1月) 遵化擴軍的初步工作(1947年2月)
 論人民軍隊 蘇中軍區政治部編印 1946年3月20日(附建軍原則尊幹愛兵及其他)
 中革軍委對各軍區各分區關於部隊官兵關係的指示(8月29日) 邊區警三旅政治部對警七团官兵關係檢討總結 解決擁愛思想中三個基本問題(鄧子恢) 永遠為人民盡忠盡孝(張鼎丞) 學習馬仁義把我們軍隊團結得像鋼鐵一樣(解放日報) 警一旅馬仁義排的官兵關係 唐炳文領導方法 擁幹愛兵初步總結(朱啓祥) 連隊工作的民主問題(賴毅) 建立明確的愛兵思想(劉漢) 永遠做人民的最好勤務員(張鼎丞) 澈底剷除軍閥思想(鄧子恢)
 關於人民武裝組織形式的改變及其工作的指示 三地委三分區 1946年1月20日
 有關共匪軍隊政治工作文件彙輯 民国36年12月
 關於邊區軍隊一年經驗的總結(中共宣傳部總政治部, 1944年4月) 關於發揚政治工作中的成績與糾正政治工作中的欠點 關於組織形式與工作制度中的一些規定 自衛戰爭的特點與戰時政治工作(魯中軍區政治部, 1946年7月14日) 連續戰鬪中連隊政治工作領導問題(魯中軍區政治部, 1946年7月14日) 連續戰鬪管理教育問題(魯中軍區政治部, 1946年7月14日) 如何提高部隊作戰情緒和信心 學習馬仁義排的尊愛精神(解放日報, 1945年4月) 再論開展尊愛運動(解放日報, 1945年4月) 警一旅馬仁義排的官兵關係(1945年2月13日) 改造部隊的文化學習(淮南日報, 1945年4月) 警二旅八团二連的文化學習(政治部, 1946年) 開展擁政愛民運動(華中區政治部, 1946年) 陝甘寧邊區留守部隊的擁政愛民 晉綏邊區的擁愛模範安駁連(晉綏邊區政治部, 1944年8月) 關於開展大規模參軍工作的指示(冀中行政公署, 民国35年11月25日) 太行「翻身農民」參軍概況 1943年淮北冬季擴軍總結 中共對特務活動的策略 鋤奸工作報告大綱(二師政治部, 1945年8月13日) 固安縣五六兩個月對國軍工作的佈置(中共固安縣委, 1946年5月5日) 解放軍對待



国軍的主張(冀東日報, 民国36年5月21日) 新解放戰士教育提綱(山東軍区, 1946年6月) 關於改造俘虜思想的介紹(冀魯予边区政治部, 1944年2月) 俘虜思想改造的調查研究(冀魯予边区政治部, 1944年2月) 連隊政治工作指導員工作細則草案 關於鞏固部隊教育工作的指示

中共中央軍委会組織系統表 中統局編
 中共第十八集團軍組織系統表 中統局編 民国36年
 中共新四軍組織系統表 中統局編
 中共東北民主聯軍組織系統表 中統局編
 共匪運動戰 統一出版社編 民国37年
 八路軍抗戰的經驗与教訓 長江出版社
 八路軍半年来抗戰的經驗与教訓(朱德) 抗日戰爭的經驗(林彪) 我們怎樣打退了正太路南進敵人(劉伯承) 山西抗戰的回憶(任弼時, 1938年1月2日) 平型關戰鬪的經驗(林彪, 10月17日) 中国第八路軍的勝利与抗戰的光明前途(王稼祥) 南方三年遊擊戰爭經驗對於抗戰的教訓(項英) 八路軍出師抗日誓詞 八路軍抗日三大紀律 八路軍抗日八項注意

紅軍抗日軍政大学講義, 第八路軍基礎戰術 西安少年先鋒社印
 抗日新戰術 毛沢東等著 新時代出版社
 論抗日遊擊戰爭的基本戰術: 襲擊(毛沢東·陳伯鈞) 抗日遊擊戰爭戰術上的基本方針(郭化若) 遊擊戰爭概述(宣俠夫)
 抗日遊擊隊的組織与戰術(上) 抗日戰爭研究会編
 遊擊戰術講授大綱
 中共之軍隊組織与運用 中央調查統計局編
 抗日遊擊戰爭中的一般問題 毛沢東等著
 敵第一軍司令官香月清之訓示
 敵对我遊擊戰对策
 查悉敵大本營殲滅遊擊隊对策秘本內容
 陝甘寧边区中共軍事概況調查 中央調查統計局編
 如何進行連隊政治工作
 日寇口中的東北抗日聯軍
 中国人民的軍事路綫 朱德
 關於優抗工作的指示 晋察冀边区編
 蘇皖边区第七行政区機關部隊請用民扶辦法

政 權 工 作

一般的問題

九一八以来国内政治形勢的演變 時事問題研究会編 重慶 抗戰書店 民国30年

中国革命基本問題 中共編
 民主團結 七七報社編
 延安各界憲政促進會宣言 吳玉章等編
 新憲政讀本 抗敵報社編 民国29年
 憲政問題參政資料 延安各界憲政促進會編 民国29年
 32年中共政治動態紀要表 中統局 民国32年
 中国革命的性質及其前途 中共中央編 民国19年
 政治常識 魯迅学院編
 抗戰中的中国政治 時事問題研究会編 延安 新華 民国29年
 關於目前抗戰形勢与怎樣爭取抗戰勝利 中共中央編
 民主導報 山東省政府編印 民国35年 初版
 實施憲政与爭取時局好轉 彭真 民国29年
 周恩来為共党參政員出席国民參政會致張沖公函 周恩来等編 民国30年
 中共割拠下之政治 李一刪 重慶 民国32年

政 府 組 織

中華蘇維埃共和国国家根本法(憲法)大綱草案 中共中央編
 全国蘇維埃第一次代表大会草案及各種法令 民国20年
 湖南省工農兵蘇維埃政府暫行組織法 民国19年
 地方蘇維埃政府的暫行組織條例 中共中央
 蘇維埃第一次全代表大会選舉條例 中共中央編
 蘇維埃政權的組織問題決議案 蘇維埃政府編
 中華蘇維埃共和国的選舉細則 中華蘇維埃中執會編 民国20年
 蘇維埃概況 中央組織委员会調查科特務組編 民国22年
 蘇維埃地方報告 湘鄂贛边区政府編 民国19年
 蘇維埃区域第一次代表大会贛西南的報告 贛西南前委代表編 民国19年
 上海糾察隊組織條例 上海糾察隊編
 蘇維埃工作決議 鄂東蘇維埃第一次工農代表大会編 民国21年
 中華蘇維埃共和国画分行政区域暫行條例 1931年12月
 蘇維埃中国 陳紹禹 1933年
 中華蘇維埃共和国憲法大綱 中華蘇維埃共和国臨時中央政府正式宣告成立 中華蘇維埃共和国臨時中央

江淮日
 的黎明
 <附
 边区各
 財產權
 津浦
 皖边区
 31年
 令 戰
 年3月
) 借
 後清償
 遇暫行
 法 清
 中应注
 戶編
 會編
 會閉幕
 議 閱
 議 陝
 區公
 條例
 軍事·
 議員題
 覺哉)
 樣工作
 覺哉)
 編
 治部編
 放日報
 33年
 寺刊
 29年



政府对外宣言 蘇維埃政府和工農紅軍是唯一武装抗日的政府和軍隊 中華蘇維埃共和国土地法 贛東三省蘇維埃執行委員會土地分配法 中華蘇維埃共和国勞動法 蘇維埃政府的經濟政策 全蘇大会關於紅軍問題的決議案 關於中国工農紅軍優待條例決議 執行優待紅軍條例的實施辦法 中華蘇維埃共和国的民族政策 中華蘇維埃共和国內的婚姻關係 蘇維埃政權系統簡明圖表

海陸豐蘇維埃 蘇維埃宣傳部編 1928年3月1日
由蘇維埃到民主共和制度 林伯渠
工農專政 中共中央宣傳部編
各級蘇維埃政府暫行組織條例 中共中央編 民國21年
陝甘寧邊區施政綱領 中共邊區中央局訂
各級參議會選舉條例 陝甘寧邊區參議會編 民國33年
現行法令彙集 晉察冀邊區行政委員會編 民國34年
陝甘寧邊區第三屆參議會第一次大會彙刊 民國35年
陝甘寧邊區第二屆參議會重要文獻 民國33年
陝甘寧邊區政制圖解 中統局編
陝甘寧邊區鄉選總結 陝甘寧邊區民政廳編 民國30年
政府工作文選 政府工作文選編委會編 民國33年
陝甘寧邊區行政調查專報 李勁武編 民國29年
陝甘寧邊區鄉參議會組織條例 邊區政府編
各級參議會選舉條例 陝甘寧邊區政府訂
陝甘寧邊區施政綱領及其解釋 中共西北中央局宣傳部編
蘇皖邊區第七行政區後勤組織辦法草案
晉西北臨時參議會彙刊 民國32年
陝甘寧邊區施政綱領 張繼祖等編譯 民國30年
陝甘寧邊區第二屆參議會概況 22軍特別黨部編
晉冀魯豫邊區法令彙編 韜奮書店 民國34年
陝甘寧邊區政策條例彙集統編 民國33年
陝甘寧邊區民主政制圖解 陝甘寧邊區政府編
陝甘寧邊區第二屆參議會第二次大會最錄 民國34年
陝甘寧邊區選舉須知 林伯渠等著
江蘇省泰興縣政府文稿簿 江蘇省泰興縣政府編 民國34年
安樂殿西鄉鄉選經過的調查 饒敬石編
選舉條例草案 陝甘寧邊區政府訂
陝甘寧邊區戰時動員法規 陝甘寧邊區政府編
抗日根拠地政策條例彙集 新華書店編
邊區法令選集 邊區臨時參議會秘書處編 民國33年

抗日根拠地政策條例彙集 邊區政府編 民國31年
各級政府組織暫行條例 邊區政府訂
現行法令彙編 予鄂邊區行政公署編 民國31年
淮北蘇皖邊區政府機關人事管理暫行條例 淮北蘇皖邊區政府編 民國32年
奸匪津浦路西各級政府組織辦法 張建基編 民國31年

政府の活動

邊區政府一年總結 林祖涵 民國33年
邊區選舉委員會今年鄉市選工作綱要 高長青編 民國31年
晉冀魯豫邊區組織系統表 晉冀魯豫邊區政府編
陝甘寧邊區政府工作報告 陝甘寧邊區政府編 民國30年
陝甘寧邊區議會及行政組織綱要草案 陝甘寧邊區政府訂
陝甘寧邊區政制圖及各級政府組織系統表 陝甘寧邊區政府編
陝甘寧邊區 陝甘寧邊區政治部編
陝甘寧邊區施政綱領 陝甘寧邊區政府編 民國30年
鄧政委在邊區第二屆參議會上的政治報告 鄧子恢 民國32年
陝甘寧邊區政策條例彙集統編 陝甘寧邊區政府辦公廳編 1944年5月
陝甘寧邊區簡政實施綱要(民國32年3月) 陝甘寧邊區政紀總則草案(民國32年4月) 陝甘寧邊區政務人員公約(民國32年5月8日) <政制> 修正陝甘寧邊區行政督察專員公署組織條例(民國32年2月) 修正陝甘寧邊區縣政府組織暫行條例草案(民國32年4月) 修正陝甘寧邊區各區公署組織條例(民國32年2月) 修正陝甘寧邊區鄉(市)政府組織暫行條例草案(民國32年10月) 陝甘寧邊區高等法院分庭組織條例草案(民國32年3月) 陝甘寧邊區縣司法處組織條例草案(民國32年3月) 陝甘寧邊區各級政府幹部管理暫行通則(民國32年4月) 陝甘寧邊區各級政府幹部任免暫行條例(民國32年4月) 陝甘寧邊區各級政府幹部獎懲暫行條例(民國32年4月) 陝甘寧邊區政務人員交代條例(民國32年3月) <民政> 陝甘寧邊區地權條例草案(民國33年1月) 陝甘寧邊區土地租佃條例草案(民國31年12月) 陝甘寧邊區土地登記試行辦法(民國32年9月) 陝甘寧邊區土地典當糾紛處理原則及債糾紛處理原則(民國32年9月) 陝甘寧邊區政府



關於擁護軍隊的決定(民國32年1月) 陝甘寧邊区政府關於擁軍工作指示信(民國33年1月) 陝甘寧邊区調整軍政民關係維護革命秩序暫行辦法(民國32年1月) 陝甘寧邊区動員潛逃及逾假不歸戰士歸隊暫行辦法(民國32年1月) 陝甘寧邊区政府為31年底前潛逃及逾假不歸戰士准免予歸隊,俾回家參加生產之命令(民國32年2月) 修正陝甘寧邊区優待抗日軍人家屬條例(民國32年1月) 修正陝甘寧邊区婚姻暫行條例(民國33年3月) 陝甘寧邊区抗屬離婚處理辦法(民國32年1月) 陝甘寧邊区政府關於禁止吸食鴉片烟的指示信(民國32年9月) <建設> 陝甘寧邊区政府為調查歷年來農業生產中的勞動英雄予以獎勵之命令(民國32年2月) 陝甘寧邊区政府建設厅關於選舉勞動英雄和模範生產工作者及某代表的指示信(民國32年10月) 陝甘寧邊区勞動英雄與模範生產工作者大會及其代表選舉辦法(民國32年10月) 陝甘寧邊区農業貸款章程(民國32年3月) 陝甘寧邊区優待移民難民墾荒條例(民國32年3月) 陝甘寧邊区運輸合作社獎勵辦法(民國32年8月) 陝甘寧邊区政府關於利用公鹽發展運輸合作的指示信(民國32年10月) 陝甘寧邊区政府關於辺区系統生產檢查的決定(民國32年9月) 陝甘寧邊区政府為推廣種植洋芋的指示(民國33年2月) <財政> 陝甘寧邊区農業統一累進稅試行條例(民國32年9月) 陝甘寧邊区農業統一累進稅試行細則(民國32年9月) 陝甘寧邊区32年度救國公糧公草徵收條件(民國32年10月) 民國33年(1944年)度各機關部隊學校一般的生活及財政供給和節約標準 <教育> 陝甘寧邊区政府關於提倡研究範例及試行民辦小學的指示信(民國33年4月) <保安> 陝甘寧邊区政府為公佈防奸公約的指示(民國33年1月) 陝甘寧邊区軍用電話綫保護辦法(民國32年3月) 陝甘寧邊区自衛武器登記給照暫行條例(民國32年4月) <司法> 陝甘寧邊区民刑事件調解條例(民國32年6月) 陝甘寧邊区政府為傳達政府委員會第4次會議關於改善司法工作的總結(民國33年2月)

抗日根拠地政策條例彙集：陝甘寧之部(上) 新華書店編

<施政綱領> 陝甘寧邊区政府關於辺区參議會擴大常委會建議的決議(民國31年6月) 陝甘寧邊区第一屆參議會告辺区同胞書(民國28年2月3日)

<政權機構> 陝甘寧邊区高等法院組織條例(民國28年4月4日) 陝甘寧邊区行政督察專員公署組織暫行條例(民國30年11月) 陝甘寧邊区县政府組織暫行條例(民國31年1月) 陝甘寧邊区各區公署組織暫行條例(民國31年1月) 陝甘寧邊区各鄉市

政府組織暫行條例(民國31年1月) 陝甘寧邊区縣務委員會暫行組織條例(民國31年1月) 陝甘寧邊区參議會會議規程(民國30年11月) 選舉條例的解釋及實施：陝甘寧邊区各級參議會選舉條例 陝甘寧邊区各級選舉委員會組織規程(民國30年1月1日) 陝甘寧邊区政府為改選及選舉各級參議會的指示信 陝甘寧邊区政府為充實「三三制」給各縣的指示信(民國31年3月) 陝甘寧邊区政府關於各級行政組織區區編制的規定(民國31年1月6日) 辺区政府委員會第二次會議關於政府工作的決議(民國31年4月9日) <內政> 陝甘寧邊区禁止婦女纏足條例(民國28年8月1日) 陝甘寧邊区戶籍條例(草案) 陝甘寧邊区通訊站暫行章程(民國28年8月10日) <武裝動員> 陝甘寧邊区重新整理辺区自衛軍工作的決定(民國31年4月) 陝甘寧邊区抗日自衛軍組織條例(民國31年4月22日) 陝甘寧邊区抗日少年先鋒隊組織條例(草案) 陝甘寧邊区戰時各級動員委員會組織規程(民國30年5月9日) 陝甘寧邊区戰時動員壯丁與牲口條例(民國31年1月) 陝甘寧邊区戰時動員壯丁牲口條例施行細則(民國30年5月9日) 陝甘寧邊区戰時動員物資辦法(民國30年5月9日) 陝甘寧邊区民政部關於動員工作指示信(民國30年5月26日) 陝甘寧邊区動員潛逃戰士歸隊辦法(草案) 陝甘寧邊区義務耕田隊條例(民國28年) 陝甘寧邊区優待抗屬代耕工作細則(民國30年8月) 陝甘寧邊区政府民政部為優待抗屬組織代耕工作給各縣的指示信(民國30年3月5日) 陝甘寧邊区撫卹暫行辦法(民國29年) <群眾運動> 陝甘寧邊区民衆團體組織綱要(民國31年4月) 陝甘寧邊区民衆團體登記辦法(民國31年4月) 陝甘寧邊区抗戰期間工會組織條例(草案) 陝甘寧邊区工廠工會章程準則(民國30年7月) 陝甘寧邊区總工會抗戰期間工作綱領(民國27年4月) 陝甘寧邊区總工會章程(民國27年4月) 陝甘寧邊区店員手藝工人工會章程(民國27年4月) 陝甘寧邊区農業工人工會(僱農工會)的章程(民國27年4月) 陝甘寧邊区戰時工廠集體合同暫行準則(民國29年11月)

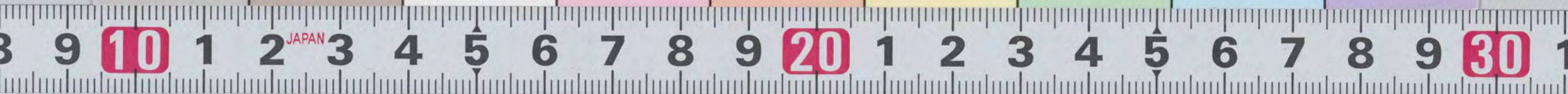
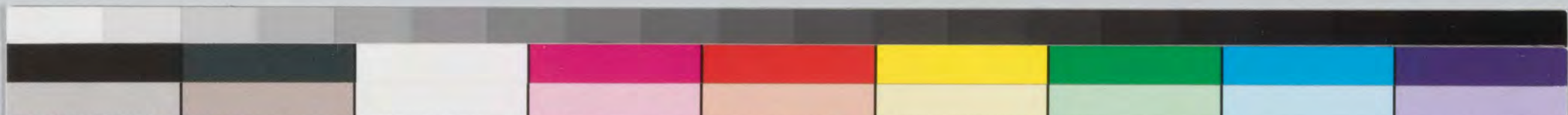
陝甘寧邊区簡政實施綱要 1942年12月

嶧勝銅郤第一屆參議會進行的情形及其總結 劉向一 1945年1月14日

蘇中鄉選經驗初步總結：1943年12月28日宋日昌同志在蘇中第二次行政擴大會議上的報告，經大會通過蘇中區黨委

淮北抗日民主建設 淮北蘇皖邊区行政公署印

辺区第二屆參議會對政府工作報告之決議(民國31年10月26日) 施政綱領 淮北蘇皖邊区三年來的政府



- 工作：1942年10月劉瑞竜同志在淮北辺区二届参議会報告
- 陝甘寧辺区第二届参議会第2次大会最録
大会經過 大会報告：林主席報告等々 陝甘寧辺区各級選挙条例 陝甘寧辺区地権条例 陝甘寧辺区土地租佃条例 通過提案彙録 大会主席団・参議員名録
- 淮北蘇皖辺区三年来的政府工作 1942年10月
- 陝甘寧辺区第三届参議会第一次大会彙刊
第三届参議会常駐会編
- 陝甘寧辺区第二届参議会重要文献 陝甘寧政府編
陝甘寧辺区地図 高崗同志致開幕詞（民国30年11月6日） 林主席致詞（民国30年11月6日） 毛沢東同志的演説（民国30年11月6日） 辺区政府工作報告的總決議（民国30年11月17日） 高崗同志關於五一施政綱領的解釋（民国30年11月15日） 通過施政綱領決議（民国30年11月17日） 高議長致閉幕詞（民国30年11月21日） 宣言（民国30年11月21日） 陝甘寧辺区保障人權財權条例（民国30年11月17日） 辺区第二届参議会正副議長常駐議員暨辺区政府正副主席委員題名録
- 陝甘寧辺区政府工作報告（民国28~30年） 陝甘寧辺区政府編
陝甘寧辺区各県人口区劃表 三年来之政權建設（林伯渠） 中共辺区中央局關於發佈施政綱領的決定 把握統一戰綫的政策（林伯渠） 郷政府怎樣向居民報告工作（劉景範） 辺区政權工作經驗的点滴（謝覺哉）
- 淮北蘇皖辺二届参議会文献之二：鄧子恢政委在辺区第二届参議会上的政治報告 民国31年10月
- 1941年陝甘寧辺区郷選總結 陝甘寧辺区民政庁編
- 陝甘寧辺区選挙委員会工作細則 1937年5月25日
今年的選挙運動 1937年
- 辺区政府簡政總結：1944年1月7日李鼎銘副主席在辺区政府委員会第四次會議上的報告
- 陝甘寧辺区選挙条例 1937年5月12日
- 陝甘寧辺区議会及行政組織綱要 1937年5月12日
- 県政會議紀錄 蘇魯予辺区政府編 1943年6月
- 県政會議報告 蘇魯予辺区政府編 1943年6月
- 陝北各県地方特殊情形調查表 中央調查統計局編
- 陝甘寧辺区施政綱領及其解釋 中共西北中央局宣傳部編
- 陝甘寧辺区施政綱領目錄
中共辺区中央局關於發佈新的方針政策綱領的決定
陝甘寧辺区施政綱領 民主政治与三三制政權的組織形式（彭德懷） 擁護陝甘寧辺区施政綱領（江淮日報社論） 論辺区施政綱領（文岸） 新中華的黎明（喬之） 对施政綱領应有的認識（蘇明） <附録> 淮南蘇皖辺区施政綱領 津浦路東蘇皖辺区各県人權保障条例 津浦路東蘇皖辺区各県人民財產權保障条例 津浦路東蘇皖辺区各県合作社条例 津浦路東蘇皖辺区各県労働保護条例 津浦路東蘇皖辺区各県工商業保護条例
- 政府工作文選 政府工作文選編輯委員会編
中共中央關於抗日根拠地土地政策的決定（民国31年1月28日） 及附件修正頒佈土地法令等的訓令 戰時土地暫行条例（民国31年9月1日，民国34年3月修正） 活地（即典地）处理細則（民国32年） 借貸暫行条例及附件（民国32年9月1日） 麦後清償債務辦法（民国32年6月11日） 改善僱工待遇暫行辦法（民国31年9月） 2種公平負担暫行辦法 清理黑地獎懲暫行辦法 執行改善人民生活法令中應注意的差個問題
- 陝甘寧辺区郷選總結（上） 陝甘寧辺区民政庁編
- 陝甘寧辺区第二届参議会彙刊 参議会常駐会編
大会經過及当選人員 陝甘寧辺区第二届参議会閉幕宣言 通過施政綱領決議 通過31年度概算決議 關於政府工作報告的總決議 關於稅收問題的決議 陝甘寧辺区県政府組織暫行条例 陝甘寧辺区各県区公署組織暫行条例 陝甘寧辺区各郷市政府組織条例 陝甘寧辺区戰時動員壯丁与牲口条例 提案：軍事・政治・財政・文教・經建・特種 辺区二届参議員題名録 辺区・県参議会常駐委員會的工作（謝覺哉） 県参議会怎樣開会（謝覺哉） 郷市参議会怎樣工作（謝覺哉） 怎樣進行郷市参議会的改選（謝覺哉） 辺区参議会常駐会報告（謝覺哉）
- 陝甘寧辺区郷選總結 陝甘寧辺区民政庁編
- 陝甘寧辺区参議会選挙条例 陝甘寧辺区政府編
- 陝甘寧辺区二届参議会実録 新四軍第五師政治部編印
二届参議会開会經過（1日~16日） 延安解放日報对辺区参議会之評論選輯
- 陝甘寧調查專報 中央調查統計局編
- 晋察冀辺区参議会的成功 新民主報社編
- 淮北蘇皖辺区行政公署文件 辺区公署編 民国33年
- 懲治貪污人員条例 陝甘寧辺区政府訂
- 晋察冀辺区成立行政委員会二週年紀念大会特刊
晋察冀辺区成立二週年紀念大会籌備会編 民国29年
- 郷政工作講義 專署編
- 陝甘寧辺区行政調查報告 陝西省調查室編



- 各区鄉情況調查表 中共县委編
- 環縣一九四三年下半年各種統計表 環縣政府編 民國32年
- 淮北蘇皖邊區單行法規 蘇皖邊區政府編
- 冀魯予蘇鄰區奸偽党政軍機構及書店刊物學校一覽表
- 陝甘寧邊區關中分區區政府以上行政組織及各級主官姓名表 中央調查統計局編
- 中共陝甘寧邊區三年建設計畫方案研究 民國35年
- 邊區第二屆參議會對政府工作報告之決議 參議會常駐會編 民國31年
- 陝甘寧邊區鹽池縣第三屆參議會彙刊 民國35年
- 選舉文件 陝甘寧邊區選舉委員會編印 民國34年
- 中共冀中各局署行政通告 冀中行署編 民國35年
- 太行區兩個村的甄別工作 冀魯予邊區政府編 民國35年
- 陝甘寧邊區政府負責人名表 中央調查統計局編 民國29年
- 關於具體執行行署鑑定政府幹部及建立幹部檔案工作訓令的決定 冀魯予第十一行政公署編 民國34年
- 人民意見箱條例 蘇維埃工農監察委員會編
- 慶陽縣四年來工作報告 慶陽縣政府 民國33年
- 銅青貴縣府派鄉幹訓令 銅青貴縣府編 民國36年
- 冀魯予區三十五年度政民供給制度 冀魯予行署編 民國35年
- 冀魯予政報 冀魯予政府秘書處編 民國32年
- 關於縣長聯席會及建設電話的訓令 冀魯予第九行政專署編 民國35年
- 為糾正貪污浪費風氣通令 泰縣政府編 民國35年
- 淮北蘇皖邊區鄉選運動實施辦法草案 行政公署編
- 論政權機構領導與幹部政策 晉察冀邊區行政委員會編 民國29年
- 山西高平縣第一次擴大行政會議紀錄 山西高平縣政府編
- 關於改造基層機構問題 皖中行政公署 民國33年
- 國民參政會紀錄 王秀春編 民國30年
- 行政導報 南漢宸等著
- 共匪各縣市區行政通告 青縣政府編 民國35年
- 宣傳大綱 永城縣參議會籌備委員會編 民國29年
- 關於中國解放區人民代表會議選舉的文件 淮南日報編 民國34年
- 來安縣行政擴大會議民政部分紀錄 來安縣行政擴大會編
- 規定公安部門組織與供給訓令 淮北蘇皖邊區行政專署編 民國34年
- 泰縣政府各科局幹部調動密令 泰縣政府編 民國34年
- 整理皖西北工作提綱 中共皖西北道委會編 民國21年
- 高中支部擁護省委六次全會決議之決議 陝西省委編 民國20年
- 女子繼承權問題的指示 冀察行政委員會編
- 婦女繼承權 晉察冀邊區第七中學編 民國34年
- 加緊準備今冬舉行的三個大會 陝甘寧邊區政府編 民國33年
- 一個政權口號上的兩條戰綫 江華 2月16日
- 抗日民主政權及其各種基本政策 晉察冀邊區政府編
- 陝甘寧邊區政治設施 中央調查統計局編
- 晉察冀政策 晉察冀區黨委編 民國31年
- 鞏固抗日根據地及其各種基本政策講授提綱 劉瑞竜
- 抗日民主政權及其各種政策 孟東波編 民國31年
- 怎樣繼續堅持與鞏固抗日民主根據地 彭德懷 民國33年
- 晉察冀邊區怎樣粉碎敵人的圍攻 左權等著 民國28年
- 淮北抗日民主建設 劉瑞竜
- 民主政治與三三制政權的組織形式 彭德懷講
- 晉綏邊區第四次群英大會重要文獻集 晉綏邊區行政公署編 民國33年
- 中國抗日民主根據地概況 八路軍政治部編 民國33年
- 淮北蘇皖邊區三年來的政府工作 劉瑞竜編 民國31年
- 淮南蘇皖邊區地方機關學校新供給制度 淮南蘇皖邊區政府訂 民國33年
- 第一次區鄉鎮長聯席會議提議案 淮安縣政府編
- 陝甘寧邊區三三制的經驗及其應該糾正的偏向 林伯渠
- 鄉政工作講義 專署編印
- 鄉政工作問題 政權工作討論題綱 政權工作討論大綱 法令問題講授提綱 關於革命者的修養問題 抗日民主政權問題 各種政策問題
- 簡政整政問題 林伯渠 1942年11月
- 整政問題：黨內文件 西北局 1943年11月
- 簡政整政問題：林伯渠同志1942年11月4日在邊區高幹會上的報告提綱 陝甘寧邊區簡政實施綱要：邊區



政府1942年12月9日第三次政府委員会通過
 我們怎樣在敵後建立抗日政權 黄河出版社 民国28年5月
 健全抗敵機能十大綱領(閻錫山) 摧毀敵偽政權的基本政策(薄一波) 怎樣實施強民政治(薄一波) 怎樣改造縣政府的機構(宋劭文) 怎樣做一個革命縣長(宋劭文) 怎樣改造區村政權機構(宋劭文) 怎樣執行抗日遊擊戰爭中的貨幣政策與貿易政策(宋劭文) 第三行政區關於經濟與教育建設的兩個方案 文水抗日政權是怎樣建立起來的(顧永田) 抗日遊擊戰爭中改革區村政權機構問題的商榷(宋劭文)

邊區政府工作一年總結
 怎樣在陝甘寧邊區建立民主共和制度?
 陝甘寧邊區參議會的演說 毛澤東
 整政問題 林伯渠 民国32年

根拠地の紹介

陝甘寧邊區與民族解放戰爭 林伯渠
 中國敵後抗日民主根拠地 晉察冀邊區編 民国33年
 延安內幕 齊世傑 民国32年
 外國記者眼中的延安及解放區 齊天編 民国35年
 陝甘寧邊區實況 中央調查統計局編
 陝甘寧材料剪集 中央調查統計局編
 冀魯豫邊區概況 中央調查統計局編 民国28年
 晉察冀邊區概觀 中央調查統計局編
 冀察熱邊區概況 中央調查統計局編
 晉冀察邊區實況 中央調查統計局編
 陝甘寧特區調查專報 宋周祿編 民国27年
 晉察冀邊區實錄 中央調查統計局編 重慶 民国29年
 邊區概況 邊區政府編
 調查統計表 中共省委編 民国35年
 兩年來邊區大事記 晉察冀邊區行政委員會秘書處編輯室編 民国29年
 敵後抗日根拠地介紹 孫值範等著 民国34年
 陝甘寧邊區全貌 華統 民国29年
 陝北鳥瞰 馬季鈴等著 民国30年
 中共領導下的晉察冀邊區實錄 張寶樹
 抗戰中的陝北 馬駿
 抗日根拠地魯西北區 姜克夫 民国28年
 顯微鏡下的陝甘寧邊區 郭文亭 民国29年
 抗日模範根拠地晉冀察邊區 聶榮臻 民国28年
 抗日根拠地晉察冀邊區視察記 薛暮橋
 西北的新區 辛白編 民国27年

解放區 晉冀魯豫邊區政府編 民国36年
 延安之淚 周鳳陵 重慶 民聲出版社 民国32年
 延安歸來 黃炎培
 鄂豫皖區蘇維埃政府各種委員會工作概況說明 鄂豫皖區蘇維埃政府編 民国21年
 論中國蘇維埃運動 杜德等著 丁宗恩譯 北斗叢刊社 民国30年
 中國解放區介紹 淮南出版社印
 百鍊成鋼的晉察冀邊區 新四軍和華中抗日根拠地 戰鬪中成長的晉綏邊區 新山東的成長 屹立在南海上的東江與瓊崖抗日根拠地 一二九師與晉冀魯豫邊區 八路軍新四軍華南抗日縱隊反攻大事記 我解放軍一月來向敵偽大進軍的戰績總結 八路軍新四軍解放的景城表

敵後抗日民主根拠地 孫文範 民国33年9月
 敵後抗日民主根拠地(下)
 百鍊成鋼的晉察冀邊區(孫文範) 華中根拠地 日人口中的共產黨八路軍和新四軍 戰鬪中成長的晉綏邊區 新山東的成長 屹立在南海上的東江瓊崖抗日根拠地 中共抗戰一般情況的介紹:葉劍英報告(1944年8月)

陝甘寧邊區現狀 楊宗周編
 陝甘寧邊區全貌(上·下) 華統
 延安歸來 金東平 重慶 商務日報社 民国33年

生產活動

建立各部隊獨立工作密切上下直接關係 鄂東南蘇政府編 民国21年
 半年來的工作總結及春耕工作的決定 中共清和浦中心县委編 民国25年
 共匪反動文件彙編(財政經濟部分) 國防部新聞局編
 <經濟計畫> 經濟問題與財政問題(毛澤東, 1942年12月) 陝甘寧邊區1946年到1948年關於經濟部分建設計畫方案 晉察冀邊區行政委員會關於下年度(民国35年10月~36年9月)財政經濟工作方針的指示 關於民国35年經濟和財政工作的發言(民国35年1月) 附關於若干經濟財政問題的決定(民国35年1月) 中共中央關於黨員參加經濟和技術工作的決定(1941年5月) <土地政策> 土地問題:七全大會報告(毛澤東, 民国34年4月24日) 中共中央關於抗日根拠地土地政策的決定(民国31年1月) 中共中央關於抗日根拠地土地政策決定的附件(民国31年1月) 中共中央關於土地問題的指示(1946年



5月4日) 中共中央華中分局為貫徹中央關於土地政策新決定的指示(1946年5月28日) 中共中央華中分局關於在減租減息清算中解決土地問題辦法的指示(1946年6月) 中共中央關於解決土地問題之新指示 中共華中局關於土地政策之新決定 晉冀魯予邊區土地使用暫行條例(民國30年11月) 土地使用暫行條例太行區施行細則草案(民國32年11月) 太行區租佃契約訂立規則(民國32年11月) 中共土地政策在晉察冀邊區之實施(1945年4月) 晉察冀邊區代耕暫行辦法(民國35年3月) 山東省租佃暫行條例(民國31年5月) 晉察冀邊區冀東行署關於發行土地債券之指示(民國36年1月) 虛報瞞報田畝暫行處罰條例(民國33年7月) 山東省借貸暫行條例(民國31年5月) <生產運動> 中共中央政治局關於減租生產擁政愛民及宣傳十大政策的指示(1943年10月1日) 山東省府35年度生產工作指示(民國35年1月) 晉察冀邊區中共分局關於開展1946年大生產運動的指示(民國35年3月) <合作事業> 論合作社(毛澤東, 1943年10月) 晉察冀邊區冀熱遼區行署關心合作運動的指示(1943年10月) 晉察冀邊區三種類型的合作社(1944年) 合作社如何經營領導群眾工業(1945年) <工商貿易> 工業問題: 七全大會政治報告(毛澤東, 民國34年4月) 晉察冀邊區行政委員會關於重新調查行政組織機構及經濟管理原則之決定 對公營工業管理上的一些意見(戒伍勝, 民國35年3月) <附錄> 組織起來(毛澤東, 1943年11月) 如何了解與掌握新解放區社會經濟(1946年8月) 對於群運中工商業問題的研究意見(1946年8月) 山東省戰時行政委員會關於具體執行八十訓令的決定(1945年4月) 關於政治制度社會經濟政策諸問題(民國33年4月) 關於發展私人資本主義

工作競賽芻議 中央訓練委員會編 民國31年
 勞動英雄及模範生產工作者選舉辦法 陝甘寧邊區政府編 民國32年
 生產計畫 黃崗縣政府編 民國32年
 予鄂邊區三十二年度春耕生產緊急動員條例草案 予鄂邊區政府編 民國32年
 怎樣辦合作社 山東省政委會調查研究室編 山東新華書店
 怎樣辦合作社(薛暮橋) 辦合作社的幾個問題(賀致平, 1944年12月9日) 臧家莊合作社的發展及其具體經驗(耿駿, 1945年2月) 崖予合作社對於幾個重要問題處理(王耕今) 魯中沂山區朱葛聯合社(蘇展) 福順成漁鹽合作社(1944年5月)
 下鄉工作經驗介紹 楊思毅等著 民國33年

組織起來: 生產運動文獻 毛澤東等著 民國33年
 中共中央政治局關於減租生產擁政愛民及宣傳十大政策的指示 1945年1月
 勞動與武力結合起來 蘇中出版社編 民國34年
 參戰與增產 華北新報編 民國34年
 生產經驗彙集 太岳軍區政治部編 民國34年
 怎樣領導生產運動 高崗等著 蘇中出版社 民國34年
 生產與家 大眾出版社編 淮北 大眾出版社 民國34年
 加強生產備荒的緊急指示 蘇皖七行署編 民國34年
 晉綏邊區生產會議總結 抗戰日報社編 民國35年
 生產經驗與生產任務 冀中導報社編 民國35年
 關於開展1946年大生產運動幾個問題的意見 冀中分區編
 發動群眾搶種搶收加強戰爭動員的指示 慶陽縣政府編 民國35年
 戶計畫家會議和改造懶漢老婆 晉察冀邊區行委會編
 晉察冀邊區的勞動互助 晉察冀邊區農會等編 民國35年
 大生產運動領導問題 晉察冀邊區實業處編 民國35年
 政權建設(第1卷第6期) 晉冀魯予邊區政府太行行署編 1947年8月12日
 發動大生產運動的領導思想與領導方法問題: 林明處長在工作組會議上總結報告之一部(8月2日) 太行區的生產渡荒運動(范履端) 呂鴻安處長在行署機關思想檢查與擠封建運動總結大會的報告(尹貽紀錄, 7月27日)
 解放區的生產運動栽富根 方耕 中國出版社 民國36年
 關於大量發動生產解決部隊財經困難命令 七軍分區編 民國36年
 1947年大生產領導要點 冀中區黨委會宣傳部編
 如何貫徹復查放手發動群眾 王卓如 民國36年
 關於公營企業中職員問題決定 中共東北局編 民國37年
 組織起來領導生產 遼東日報社 民國37年
 東南縣委關於目前如何組織勞動互助組的幾點意見與指示 東南縣委會編
 開展生產運動給各區鄉的急指示 泰縣政府編
 開展目前生產運動給各區鄉的緊急指示 泰縣政府編
 在生產工作中團結了群眾的村支部 中共渤海區黨委編

5日)
 綱領提
 來, 民
 商) 保
 余以來
 援助中
 月号)
 8, 9
 及其前
 旧陰
 即滅亡
 一團結
 人接物

產党的
 月)
 日)
 主義反
 為完成
 掃蕩」

國28年
 中國抗
 講演提
 會工作
 反對第
 毛澤東
 先生,
 類利益
 三民主
 鞏固
) 目
 紹禹,
 與任務
 四軍(項

國29年
 月, 民國
 華北抗
 同志對
 相

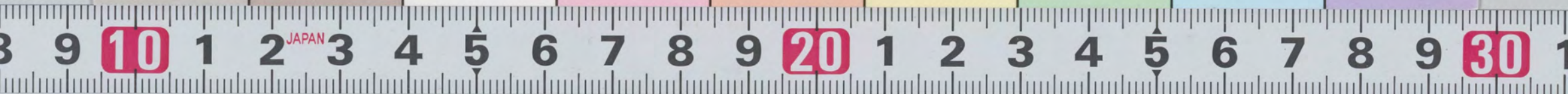


黄岡県政府召開成立県生産建設委員会決議案
 領導互助組的幾個重要問題 李力果講
 春耕生産緊急動員條例草案 予鄂辺区政府訂
 怎樣領導老百姓生産 吳祖怡 七七報社
 合作互助生産的活樣子 李春蘭 冀魯予書店 民国
 35年
 春耕生産緊急動員草案 予鄂辺区政府編
 新解放区的群衆生産 晋察冀中央局編
 勞動互助的典型例子与經驗 晋察冀辺区行政委員会
 実業処編
 變工互助的幾個基本問題 晋綏辺区行政公署編
 工作計画 十八分正建聯会編
 卅一年度春耕運動工作辦法 陝甘寧辺区政府編

土地問題

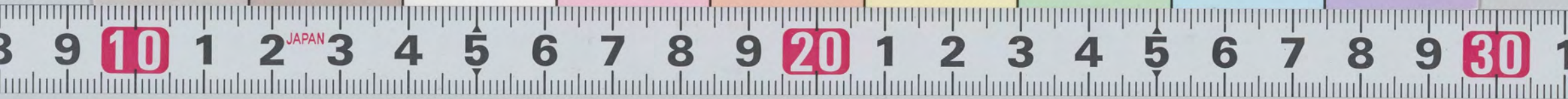
土地暫行法 全国蘇維埃第一次代表大会編
 滿州農民運動工作大綱 滿州省委編 民国19年
 反富農問題 紅軍第一軍政治部編 民国19年
 農民鬪争綱領 鄂予皖軍区總政治部編 民国21年
 蘇維埃区雇農總工会章程 中華全国總工会編 民国
 21年
 土地鬪争問題的決定 中共中央編 民国22年
 土地問題決議 沔陽縣蘇維埃政府編 民国26年
 農村工作問題討論提綱 中共閩西南軍政委 1937年
 6月10日
 農会工作大綱 辺区農会編 民国26年
 農会問答 晋察冀辺区農抗救国会編 民国29年
 中共之土地政策 中共中央編 民国31年
 關於地租及佃權問題 中共中央政治局 民国31年1
 月28日
 抗日根拠地土地政策的決定 中共中央編 民国31年
 目前局勢与農救工作 七七出版社
 迎接天光：華中局党代表鄭位三同志在辺区農救代表
 大会上的政治報告（1944年11月22日） 一年來農救
 工作總結：陳少敏同志在辺区農救代表大會上的報告
 秋收減租總結：吳祖貽同志在辺区農救代表大會上的
 報告 大會的總結：陳少敏同志在大会閉幕典禮時的
 報告
 中国共產党的土地政策 中共中央編 民国33年
 中国共產党的土地政策 冀魯予書店編 民国33年
 土地政策參攷材料 冀晋区農抗会編 民国34年
 抗日民主政府实行的減租交租政策研究提綱 抗
 日民主政府編 民国34年

土地改革宣傳要点 冀晋農会宣傳部編 民国35年
 關於具体執行中央5·4指示及中央局指示的決定
 中共冀中区党委編 民国35年
 堅決实行土地改革領導群衆徹底翻身 魯中区党委
 宣傳部編 民国35年
 大胆放手貫徹土地改革運動 魯中区党委宣傳部編
 民国35年
 沒收漢奸土地減租減息增加工資佈告 蘇皖辺区政
 府編 民国35年
 土地改革第一階段幾個問題的經驗介紹：党内秘密
 文件 冀中区党委 民国35年12月1日
 變工互助經驗介紹 魯中区行政公署編 民国35年
 土地改革中幾個問題的指示 冀中区党委編 民国
 35年
 關於徹底推行土地政策解決農民土地問題 山東省
 膠東区行政公署編 民国35年
 執行土地政策的具体辦法 中共大興縣政府編 民国
 35年
 關於貫徹中央土地問題的指示的研究提綱 中共華
 中第一地委編 民国35年
 土地改革後的政策 辺区政府編 民国35年
 怎樣組織力量進行土地改革運動 新華日報社編
 民国35年
 減租減息增資及懲治叛国犯條例佈告 蘇皖辺区第
 八区行政專員公署編 民国35年
 土地法大綱 中国共產党全国土地會議編 民国36年
 中国土地法大綱 中共中央委員会編 民国36年
 中共的土地改革政策及其四大組織的運用 統一出
 版社編 民国36年3月
 中共的土地改革政策 中共的「鬪争運動」 中共的
 「四大組織」 中共的作風問題
 農村工作的好幹部 浙江人民出版社
 農村工作問題參攷材料 民国36年8月
 凌×地区放手發動農民武装分粮的經驗介紹 組織以
 後的問題 華北土地改革經驗一般介紹 抓緊時間放
 手發動新收復区群衆 新收復区聊城之土地改革 膠
 縣新收復区群衆運動經驗 黄河南岸白天分田晚間遊
 擊 聊城怎樣轟開土地改革面的
 告農民書 冀東区新農会臨時委員会 冀東新華書店
 印行
 中共冀東区党委，冀東行政公署，冀察熱遼軍区冀東
 軍区聯合佈告（民国36年12月） 冀東区新農会臨時
 委員会告農民書
 關於開展訴苦運動土地改革 審查工作結合保衛工作
 的指示 冀中分区政治部編 民国36年



中国土地法大綱 晋冀魯予边区政府 民国36年
 新土地政策怎樣執行 口城正鼎府教育科編 民国36年
 36年度秋收土地政策 晋察冀边区政府編
 冀中区党委執行中共五四指示基本總結 冀中区党委編 民国36年
 告農民書 晋綏边区農会臨時委员会 民国36年
 潮汕区減租減息實施暫行辦法 潮汕人民抗征隊第三大隊編 民国36年
 關於土地改革整党与民主運動的指示 中共晋冀魯予中央局 民国37年
 在老区半老区怎樣進行土地改革 冀南新華書店編 民国37年
 關於目前生產与土地改革中幾個問題的指示 中共冀中区党委等編 民国37年
 平分土地与整頓隊伍 彭真 民国37年
 土地問題指南 西北局宣伝部編印 1947年10月24日
 湖南農民運動考察報告(1927年3月) 劉少奇同志給晋綏同志的信(1947年4月22日) 中国土地法大綱的決議(1947年10月10日)
 毛匪進行土地改革工作与整党工作的指示 溧陽县政府編 民国37年
 論新解放区土地政策 新民主出版社編 民国38年
 關於土地政策的決定 中共中央
 土地政綱 中共沔陽县委編
 中共最近之土地政策 統一出版社編
 土地改革具体政策 县委編
 陝甘寧边区土地租佃条例草案 陝甘寧边区政府編
 土地租佃条例 廣東人民抗日遊擊隊東江縱隊編
 土地法上的三件大事 章容編
 陝甘寧边区地權条例 边区政府編
 減租減息徵收公粮条例 惠東宝人民護師团第三大隊編
 澈底平分土地与婦女工作的新任務 鄧穎超
 貧農会章程 中共茶陵县委編
 三查運動中的訴苦經過 涇源部隊編
 晋察冀边区減租減息辦法 晋察冀边区政府編
 土地改革宣傳大綱 中共渤海区党委編
 給新解放区農民一封信 渾源張莊新農会編
 土地改革中的幾個重要問題 任弼時
 共匪晋察冀边区之土地政策
 農民問題 陳伯達
 浙南農民聯合会臨時章程 浙南農民聯合会編
 共匪土地政策重要文件彙編 中聯出版社編印
 <江西時代> 中国共產党与土地革命(民国16年8

月) 土地問題議決案(民国17年7月) 農民問題議決案(民国17年7月) 偽中国革命軍事委员会頒佈的土地法(民国19年) 中華全国蘇維埃区域第一次代表大会通過的土地法(民国19年9月) 中華蘇維埃共和国土地法(民国20年12月) 江西省蘇維埃政府對於沒收和分配土地的条例(民国21年12月) 中央政府關於土地鬭爭中一些問題的決定(民国22年) 中央局關於查田運動的決議(民国22年6月) 中央政府關於查田運動的訓令(民国22年6月) 查田運動的初步總結(民国22年) 共產國際对共匪有關於土地問題的指示: 国民革命与農民(民国15年11月) · 關於農民問題(民国18年6月) · 党的主要任務(民国19年7月) · 蘇区党的任務与蘇維埃運動的前途(民国20年7月) <抗戰時代> 共匪的四項諾言(民国26年9月) 共匪中央關於抗日根拠地土地政策的決定(民国31年11月) 共匪中央關於抗日根拠地土地政策決定的附件(民国31年11月) 偽晋察冀边区租佃債負条例(民国32年1月) 偽晋察冀边区租佃債息条例施行条例(民国32年1月) 晋察冀边区關於貫澈減租政策的指示(民国32年10月) 晋察冀边区關於雜租小租送工的解积(民国33年3月) 晋察冀边区關於保護農村僱工的決定(民国33年9月) 晋冀魯予边区土地使用暫行条例(民国34年5月) 太行区土地使用暫行条例施行細則草案(民国32年) <勝利以後第一階段> 晋綏边区關於推行減租減息普遍深入發動群衆的指示(民国34年10月) 華中局關於實施土地改革之決定(民国35年3月) 晋綏边区对新解放区土地問題处理辦法(民国35年3月) 晋冀魯予边区太岳区对特殊土地問題处理辦法(民国35年3月) 東北中央局關於处理日偽土地的指示(民国35年4月) 蘇皖边区土地租佃条例(民国35年) 中央關於土地問題的指示(民国35年5月) 華中局貫澈党中央「五四」關於土地政策新決定的指示(民国35年5月) 華中局關於減租減息清算中解決土地問題辦法的指示(民国35年6月) 閩贛粵边区民衆義勇隊佈告及減租減息辦法(民国35年8月) 中央關於解決土地問題的指示(民国35年10月) 山東省政府土地改革暫行条例(民国35年10月) 山東省政府解決土地改革辦法(民国35年10月) 綏蒙政府对減租減息及土地改革之指示(民国35年10月) 冀魯予边区地委对貫澈土地改革与大量發展組織的補充指示(民国35年10月) 華中地委对貫澈土地政策深入群衆鬭爭的指示(民国35年10月) 晋冀魯予边区太岳区對於貫澈土地改革之決定(民国35年11月) 滨北区地委对土地改革運動之檢討及確定当前任務之決定(民国35年12月) 陝甘寧边区徵購地主土地条例草案(民国35年12月) <勝利以後第



- 二階段> 浜海区地委対加緊「土地復査」之決定
(民国36年9月) 華中区關於土地復査運動の指示
(民国36年10月) 新華社檢討「土地改革運動」之
広播 <勝利以後第三階段> 中央關於公佈「中
国土地法大綱」の決議(民国36年10月) 中国土地
法大綱(民国36年9月) 晋綏辺区農会臨時委員会
告農民書(民国36年9月) 晋察冀辺区保障農民激
底翻身佈告(民国36年11月) 東北解放区実行「中
国土地法大綱」補充辦法(民国36年12月)
- 關於若干特殊土地の処理問題
關於債務問題
告農民書 晋綏辺区農会臨時委員会 熱東人民報社
土地問題对各級党委の指示
中共最近之土地政策(抗日時期) 統一出版社編印
農業政策 辺区政府編
土地政策在辺区の具体執行報告 張霖之
- 中共土地政策在正定推行実況 正定県政府編
賠償中農土地問題の決定 冀東区党委編
論党的放棄蘇維埃政權及土地革命 □夫著
關於目前土地改革的工作計劃 鄒県県政府編
關於土地問題給各級党委的一封信 中共中央華中
分局編
陝北中共現行土地革命之一般政策 陝西省調査室
編
沒收土地和建立蘇維埃 中共中央編
二分区土地會議原文 晋察冀日報社編
土地改革標語口号 冀魯予区党委編
土地革命宣傳大綱 中共沔陽県委会編
農民目前鬭争綱領 安陽県農民協會籌委会編
關於土地改革的指示 辺区政府編

(32頁より)

わが「洗脳」記(増補)——中国ひとり三週間の旅
井出新六
東京 1966 94 p. [7470]
著者は共同通信社の記者だが、取材記者としてではな
く、一人の観光旅行者として、1964年11月6日から同月
28日まで中国を旅した。本書はその旅行漫録。14日間滞
在した北京や、帰路たち寄った上海・杭州・南京・武漢
・広州の風物、人情が、見るまま感ずるままに記されて
いる。本書の題名で、その感ずるところが如何であった
かは推測されよう。以上の本文は、1965年に出版された
が、これに「洗脳その後」の1章を足して再版したの
が、この増補版。

中国文明の伝統 NHK特別取材班
東京 日本放送出版協会 1966 238 p. 図版
[7595]
NHKが1964年にひき続き派遣した特別取材班の中国
取材記。1965年10月末から1966年1月中旬までの2ヶ月
間、北京・太原・西安・洛陽・鄭州・済南・曲阜・揚州
・南京・蘇州・上海・杭州・紹興・広州の各地をまわっ
た。今回の取材の焦点は、中国の文明や伝統文化が現代

中国においてどのように保護され、継承されているかを
明らかにすることにおかれた。これにしたがい、本書で
も、訪問地の風土、そこに展開してきた歴史と伝統、今
日の人々の生活との関わり方を紹介するとともに、京劇
の現代化、文字改革、博物館や孔子廟などにみられる歴
史遺産への姿勢について詳述している。

中国語研究者教育者代表团訪中報告書 中国語研究者
教育者日本代表团
名古屋 采華書林 1966 81 p. [7402]
5名の中国語研究者教育者の中国旅行記。5名とは藤
堂明保、香坂順一、伊地智善継、芝田稔、長谷川良一
で、「中国語教育研究者日中交流懇談会」から選ばれた
もの。1966年4月27日、日本を去って、5月21日に帰
国。この間、北京に12日間滞在するほか、西安・蘇州・
上海・杭州・広州を見物している。本書はその旅行記。
博物館、劇場、工場、人民公社など見聞のほか、各機
関、学校で開かれた座談会のことや、何其芳、楼棲、趙
安博氏らの講話の概要が記されている。附録に、藤堂が
文字改革委員会で行った「日本の文字改革」と題する講
演要旨が載せられている。



日本人の新中国旅行記

はし が き

- 1) この解説は、1949年中華人民共和国成立以後に同国を旅行した日本人の旅行記を集め、簡単な解説文を附したものである。
- 2) 旅行記は雑誌にも多く発表されているが、茲では本「彙報」4号に引続き、1964年4月以降東洋文庫近代中国研究室に受け入れた単行本だけを扱った。
- 3) 解説するにあたっては、訪中の時期、訪れた場所、同行者、目的をできる限り明らかにした。
- 4) 中国以外の国の旅行記を含んでいるものは、その旨を記すにとどめた。
- 5) 排列は訪中時期の順によった。ただし、同一グループの場合は書名の音順とした。
- 6) 図書に関する記載事項は、書名、編著者名、出版地、出版社、出版年、頁数で、[]の中は排架番号である。
- 7) この解説は、東洋文庫近代中国研究室でまとめたものである。

目で見たソ連中共 中曾根康弘

東京 憲法調査会 1954 62P. [7030]

憲法調査会主催による「ソ連中共視察帰朝講演会」の速記を編輯採録したもの。中国を扱ったものは38頁以降の20頁余である。この視察旅行は1954年のことで、約2ヶ月の期間、自由党から共産党までの各党代表が一諸に行ったらしい。著者は当時改進黨所属の衆議院議員で憲法調査会の会員。1時間ほどの講演の記録であるから、中国の政治、経済、文化、社会の諸事情が簡単に述べられているにすぎない。その結論として、ソ連、中共に対する日本の外交方針を導きだそうとしたものである。

お隣りは天国か——ソ連・中共見聞記 中外調査会

東京 新世紀社 1956 223P. [7478]

中外調査会がその研究会に招いた講師の講演をいくつかまとめたもの。中国に関しては、「お隣りの『天国』——新聞記者の中共見聞記」と題し、東京新聞編集局次長横田芳郎の講演速記全文とその質疑応答、及び同筆者の附録：中共ノート（東京新聞からの転載）がある。筆

者は1955年7月下旬から9月初旬まで、中国の新聞工作者聯誼会に招かれた日本新聞放送中国視察団の一員として、広州・北京・東北諸市、漢口・上海を廻った。講演内容は個々の視察地紹介より、むしろ全般を通じて感じた印象、特にその全体主義国家における「力の政治」の印象について述べている。附録：中共ノートは、前者より具体的に各方面の仕組みを紹介して、各例に対するデータは詳しい。筆者はここにおいても、それらが巧妙な全体主義的施策の下にあり、教育の浸透していることに注目して述べている。

五星紅旗の国 芦沢新二

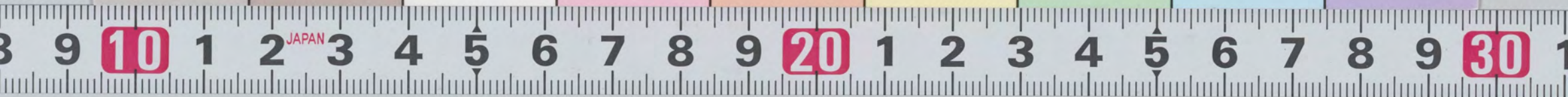
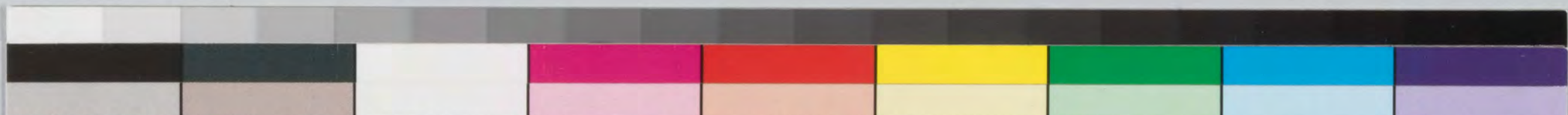
東京 三和新聞社 1956 162P. 図版 [7170]

著者は鉄軌工業部門の青年実業家。北京市長彭真の招請による日本六大都市代表中国訪問団47名のうちの専門家代表として、1955年9月20日から10月20日の1ヶ月間にわたり北京・瀋陽・鞍山・撫順・天津・南京・上海・武漢・広州等の各都市を訪問した。対資本家政策に重点を置きながら新中国の経済政策を概観するとともに、日本人の旧支那観を正すという趣旨で新中国の日常生活一般にかんする見聞を雑録風にまとめている。巻末に代表団と周恩来の会談でなされた周恩来演説の全文が、通訳竹内実の訳で収められている。これは対日外交と国内政治の基本方針を述べたもので、29頁にわたっている。また著者撮影の写真が多数収められている。

中国・十二の物語 丸岡秀子

東京 池田書店 1957 268P. [7596]

1957年1月16日から3月6日まで北京大学の招きで中国を訪れた時の記録。北京・西安・南京・上海・杭州・広州をまわったが、本書では、旅行の順序にしたがわず、著者の印象に残った話を12章に分けて書いている。かつて車夫であった人の話、民族資本家の話、総工会の婦人幹部から聞いた長征時の苦勞や賃金問題、瞿秋白夫人楊之華と会ったこと、職業や結婚についての青年たちの考え方、主婦と家事労働の問題、婦人教師の話、土地改革から現在の高級合作社に至る農村の変化、著者の世話をした通訳の人たちの印象。著者は、農村婦人の問題や教育関係の分野で活動してきた人なので、自らの体験をも思い合わせながら、いろいろの階層の人たちと心の



ひだにふれるような話をしている。非常に人間的なあたかみの伝わってくる本である。なお、同行者は宗像誠也以外は不明である。

私は中国の兵隊だった 春野鶴子

東京 学風書院 1958 245 P. [4555]

本書は昭和13年以来9年間を日中戦争中の上海で過した著者が日本敗戦後の混乱の中で経験した特異な体験を綴ったもので、新中国旅行記といえるのは最後の約20頁ほどの部分のみである。旧い中国を離れて帰国後約10年以上すぎた昭和32年に日本各地の婦人代表の一人として招待され、再び中国を訪れた、その時の見聞記である。記述は著者のよく知っていた上海、演劇などにかぎられているが、旧来と面目を一新した新中国の様子が述べられている。

異国の旅 井上靖

東京 毎日新聞社 1964 255 P. 図版 [6906]

著者の新聞、雑誌に発表した数度の海外旅行の報告を一冊にまとめたもの。1960年のヨーロッパ旅行、1957年、1961年、1963年の3回にわたる中国旅行、1963年の韓国旅行の報告よりなる。ヨーロッパ旅行記が主体で、中国旅行記は45頁を占めるにすぎない。3回の中国旅行のうち1957年の第1回目は、日本文学者代表として10月末から約1ヶ月中国各地を旅行した。同行者は、中野重治・山本健吉・本多秋五・多田裕計・十返肇等。この旅行では長城と天壇の見物記がのせられている。1961年の第2回目も日本文学者代表として盛夏の1ヶ月を旅行した。同行者は、亀井勝一郎・平野謙・有吉佐和子等。明十三陵のうちの定陵見物記がある。1963年の第3回目は、9月末から10月にかけての1ヶ月、鑑真和上円寂一千二百年記念訪中日本文化界代表の一員として鑑真の記念集会和鑑真記念館の定礎式に列席する為訪中した。同行者は安藤更生・宮川寅雄・長島健・長沢元夫・佐木秋夫。この時の記事には揚州と西安訪問記がある。

上海にて 堀田善衛

東京 勁草書房 1965 274 P. [7056]

著者は、1945年から1946年にかけての大戦終了前後の混乱期を、上海で過した経験をもつ。そして、1957年11月、中野重治、井上靖、本多秋五、山本健吉、十返肇、多田裕計などの人々と共に招かれて行った中国の旅を通して、当時の中国を回想する。この雑文集は、著者がか

つて生活したことのある上海に限定されている。解放前と解放後の上海の変化、近代中国の文学者と近代日本の文学者との対比、抗日戦終了後の内戦について、目撃した漢奸処刑など、上海についてかつて感じ、考えたこと、また1957年の旅の時に感じ、考えたこと、納得できたこと、できなかったこと、中国と日本との問題が、著者自身の体験に基いた、著者自身の問題として述べられている。中国と日本との歴史的な、また未来における関係というものは、我々一人一人の内在的な問題であると規定している。他に「断層」、「訓詁の学」を収録する。

黄竜と東風 伊藤武雄

東京 国際日本協会 1964 320 P. 図版 [5240]

本書は、全体としては、満鉄の職員であった著者が1917年にはじめて中国へ旅行した時から、1930年迄の回想記である。その最後の二章において、1930年春著者のあこがれの地であった四川へ旅行した時のこと、1958年10月、国慶節に参列した後再び同地を訪れた時のことを、併せ記している。かつては揚子江を重慶へと溯り、二度目は重慶から宜昌へ下った著者は、三峡の景観に感動し、30年後に見た変化の様相とともに地理的にも詳しく記述している。また、じめじめして、街も狭かった重慶の町が、明るく広い街路をもつ重工業都市に変わったことに驚きの目をみはり、各種の工場や「紅岩」で名高い八路軍弁事処を紹介している。

中国のこども 川合章

東京 紀伊国屋書店 1964 196 P. [5210]

著者は1961年9月から10月にかけて1ヶ月間、「日本民間教育家代表団」の一員として広州・武漢・北京・南京・上海・杭州など中国各地を訪問し、教育事情を視察してきた。本書はその際の見聞をもとにし、中国で出された教育関係の資料なども引用して、現在の中国における青少年のすがた、教育のありさまを概観して述べたものである。旅行記というより現代中国の教育事情を紹介したもので、託児園・幼稚園などの幼児教育、小学校から大学までの学校教育のほか、労働者のための業余学校・博物館・文化宮などの文化教育施設、少年宮のような青少年のための施設にいたるまで、社会のあらゆるところで行われている教育を広くとりあげて記している。

揚子江のほとり——中国とその人間学 武田泰淳

東京 芳賀書店 1967 429 P. [7573]



新聞、雑誌にこれまで発表してきた中国に関する文章を集めたもの。内容は主として中国文学を論じたものと中国旅行を描いた紀行的なものである。著者が中国を訪れたのは戦争中以来5回に及ぶが、そのうち新中国になってからは1961、64、67年の3回で、いずれも文学者として迎えられた。旅行記は3回がまとめて収められているが、訪中の折々の印象を随筆風に記した断片的なものである。いずれも比較的短い、それぞれの時期の中国の事情が読みとれる。また著者の文学者としての訪問であるから、中国の文学関係者と会うことが多く、老舎・巴金・謝冰心・曹禺などよく知られた作家達の姿がうかがわれる。

わが中国抄 武田泰淳

東京 普通社 1963 238 P. [4121]

著者は作家であるとともに中国文学研究者であるが、この本は雑誌等に発表された、著者の中国文学と中国文化一般に関するエッセイを集録したもので、1935年から1963年までのものが収められている。著者は戦中に2回中国の土を踏んでいる。1937年に一兵卒として杭州上陸の部隊に加わり、また1944年に翻訳の仕事で上海に行っている。戦後は1961年冬に訪中している。この時の中国旅行の感想が「北京・カイロ・モスクワ」と題して本書に収められているのだが、これは1962年に「岩波の文化講演会」で行われた講演に加筆されたものである。一行は堀田善衛・椎名麟三・中村光夫と著者の4人。広東・武漢・鄭州・杭州・北京の各都市を訪れ、老舎に会ったり作家同盟の座談会に出席したりしている。

法律家のみた中国 青年法律家訪中代表团

東京 日本評論社 1965 223 P. [7077]

1955年以来日本の国際法律家協会は中国との交流のため殆んど毎年法律家の代表団を派遣している。本書の執筆者達はその9回目の訪中代表団にあたる。1963年5月から6月の約1ヶ月の旅、とくに今回は青年法律家ということで選ばれた一行10名である。その各自が記した文章を集めてまとめたのが本書である。生活、経済、革命の伝統教育、法律と項をたて、著者達の目に写った中国のすがた、民衆の生活、社会主義建設の状況などを綴っている。訪問者が法律家であるから、その旅程の中には中国の法律家との座談会、人民法院における裁判傍聴、監獄の見学等が含まれ、その報告が最後の法律の項に収められている。執筆者は次のとおり。宮内裕(京都大学教授)・花田啓一(弁護士)・利谷信義(都立大学

助教授)・樋口幸子(弁護士)・諫山博(弁護士)・石川元也(弁護士)・渡辺洋三(東京大学助教授)・鳥生忠佑(弁護士)・安達十郎(弁護士)・鍛冶利秀(弁護士)。

むらさきの旅情 深尾須磨子

東京 弘文堂 1965 258 P. 図版 [7079]

詩人である著者の5度目の海外旅行の記録。1963年5月に日本を立ち、中近東・ローマ・パリ・ブダペスト・ワルシャワ・モスクワの各都市に滞在して旧約の土を踏み、サッフォーをしのび、ヨーロッパの旧友を訪ね、帰国の途中10月18日から11月13日まで中国に滞在し、広東・北京・南京・蘇州・上海・杭州の各都市を見学した。本書は全編自作の詩を散りばめたユニークな旅行記であるが、第4章の中国旅行の部分だけは走り書きの日記の再録であって、27頁を占めるにすぎない。兄弟国中国に対する日本人の罪の許しを乞うという気持で渡中した著者は、解放後の中国にみなざる創作と建設の意欲に人類文化の正しい方向を感じ、また国をあげての大事業の中で大らかさを失わない国民性に強い印象を受けている。

六億の合唱 三谷秀治

大阪 浪花書店 1965 259 P. [7110]

1964年1月に中国を訪問した国際貿易促進地方議員連盟代表団の一員として見聞してきたところを記したものの。著者は日本共産党の大阪府会議員。本書にとりあげられているのは全旅程のうち、広州・武漢・北京・天津のみで、そのほか訪れた南京・蘇州・上海・杭州については省かれている。一般的な旅行記の叙述に加えて、著者がとくに関心をよせる人民公社と公私合営の資本家について知りえたことがとくに紹介されている。広州の大雁人民公社、天津の公私合営企業である仁立公司、その社長である民族資本家についての記述がくわしい。鄧小平副総理、彭真北京市長との会見、旅行の目的であった共同声明調印の様相もうかがわれる。

太陽を射る中国——七億の大行進 高田富佐雄

東京 弘文堂 1965 199 P. 図版 [6961]

著者は毎日新聞外信部副部長。日中記者交換と貿易連絡事務所の相互開設を実現させた、松村謙三の第三次訪中団に特派員として同行。1964年4～5月の4週間中国を旅行した。一行は8日間の北京会談のあと、延安・西安・成都・重慶・武漢・桂林・南寧を訪れた。著者は、

すでに1956年7月、1週間ではあるが、抑留中の戦犯に面会を許された家族に同行して訪中しており、また、1958年から61年の3年間香港特派員をつとめている。その経験と知識を生かして、今回の旅行での観察を軸にしながら、1956年頃からの中国の政治・経済・外交の動向を跡づけている。特に、「自力更生」のスローガンが打出された1963年以降を「第二の延安時代」と名づけ、1959年にはじまる苦難の時期を乗り切った中国の表情を記者らしい目で見ている。最後に日中関係の今後に思いをいたし、日本政府の不合理な対中国政策が改められるべきだと説いている。

日中農協のかけ橋——訪中全購連代表団の記録
三橋誠等著

東京 新葉書房 1964 258 P. [7074]

全国購買農業協同組合連合会代表団の1行7名が、中華全国供銷合作総社の招待で訪中した際の視察報告書。時期は1964年5月末から約1ヶ月。供銷合作社は人民公社成立後も並存しておかれ、中国農村の流通を受けもっている協同組合である。代表団の全購連とは従来から交流がある。本書は代表団の性格上、人民公社、供銷合作社が数多く見学されているので、それに重点をおいてまとめられている。人民公社、供銷合作社の事情が、実地の見聞を紹介しながら、さらに説明を加えてくわしく述べられているので、この年代の状況がよくわかる。なお一行の見聞した国営及び公私合営の百貨公司など、都市における流通機構にもふれられている。また日本の協同組合関係者は、中国の協同組合、即ち供銷合作社と直接貿易関係を開くことを望んでおり、この代表団訪中の目的も一つはそこにあるので、中国滞在中関係方面との接触をかなり行っている。本書の一部はその報告にあてられ、盧緒章対外貿易部副部長、南漢宸中国国際貿易促進委員会主席などとの会談、中華全国供銷合作総社との懇談などの記録が収められている。

躍進する中国 川口健夫

高知 高知県職員労働組合 1965 222 P. [7444]

著者は1964年11月、約1ヶ月に亘って、高知県訪中経済貿易文化視察団（訪中第七次視察団）の一員として、広州・武漢・北京・南京・蘇州・上海・杭州を訪問した。この視察団は、高知県の地方産業発展のために日中貿易の促進をはかるという任務をもつ。本書は単なるその時の旅行記というよりは、現代中国を理解するための啓蒙書といった感じが強い。「人間性を高める教育制

度」,「躍進する人民公社」「総工会と賃金制度」等18項目に分けて、それぞれの歴史的背景、および現在の状況が記されている。

大松・中国を鍛える 大松博文

東京 講談社 1965 235 P. [7107]

著者は東京オリンピックに優勝した日本女子バレー・チームの監督。オリンピック終了後の1964年11~12月親善試合をするために、ニチボー・チームを率いて中国を訪問。翌1965年4~5月には、中国人にコーチするため再び中国を訪れた。本書は、著者のコーチに対して、中国人選手及びその関係者がどのような反応を示したかを記したものである。

新中国有心 杉村 武

東京 朝日新聞社 1966 275 P. [7277]

著者は朝日新聞社論説委員。1965年春、三週間の中国旅行での印象記。広州・長沙・武漢・蘇州・南京・万里長城などを訪れて感じた、さまざまな細かいことに目をとめている。例えば、旅行中生水を飲めなくて苦労した話。中国伝統手工芸が、解放後の中国でいかに温存と向上をはかられているか。昔から有名な中国の菓子、酒、茶、おみやげ品について。園芸、植樹、造園について。京劇の現代化について。旅行中、著者の世話をした三人の工作人員との交りについて、など。著者は、本書の中で、新中国の詩情を描き出そうとしたと述べている。著者自身の作による漢詩も多く収録されている。

新中国あんない 日中友好代表団

京都 法蔵館 1966 215 P. [7230]

比較的容易に中国旅行ができるようになり、適当な案内書を求める人が多い。これに応ずるべく編纂されたのが本書である。従って、前篇では初めての中国旅行者を対象にして、旅行の準備や中国でのエチケット、見学場所、秦~清に至る日中友好史について簡単な説明があり、また参考書目もあげられている。後篇は、日中友好訪中京都府代表団が1965年4月8日から5月8日迄、中日友好協会の招きで中国を訪問した時の団員の報告と感想である。一行は舞鶴市長以下、京都府会議員、市会議員、労働組合代表、仏教界代表ら10名より成る。広州・北京・西安・延安・杭州・上海を訪れた。各地での見聞が団員各々の職業と専門に基き、以下のテーマにまとめられている。婦人労働者、労働組合と労働者の生活、人



民公社、上海の市政、青少年と革命の継承、各所に掲げられているスローガン、仏教のあり方。

今日のチベット 高野好久

東京 新日本出版社 1966 215 P. 図版 [7566]

著者は北京駐在『赤旗』特派員。『人民日報』のチベット取材記者団の一員として、1965年7月から8月の1ヶ月間、自治区成立直前のチベットを旅行した。記者団は外国人記者7名、中国側記者5名の計12名よりなり、日本人は著者の他に『赤旗』特派員の田村茂と日本電波ニュース社北京特派員の大小島嘉一が参加した。本書は『赤旗』日曜版1965年10月3日から12月26日まで13回にわたって連載されたその時の見聞記に加筆してまとめたものである。ラサの寺院、市民生活、ラサ郊外の工場、労働者の生活、人民公社、人民解放軍、山南専区の農業互助組の現状を伝えながら1959年ダライ・ラマの反乱平定後始った、チベットの『偉大な変革』の姿を知らせようとしている。巻末に資料として「チベット平和解放の諸方策」にかんする中央人民政府とチベット地方政府との協定全文、1965年9月1日チベット自治区第1期人民代表大会第1回会議での謝富治演説の摘要と張国華自治区第1書記報告の要旨、自治区成立をつげる『北京週報』のニュースが収録されている。所収の写真は田村茂撮影のものである。

大きな路の上を——第1回訪中学生参観団文集 第一回訪中学生参観団斉了会

東京 第一回訪中学生参観団斉了会 1965 88 P. [7321]

1965年8月わが国で最初の訪中学生参観団が結成され、126名の学生が2週間に亘って広州・杭州・上海・北京を訪問した。帰国後、学生達はわが国における「ゆがめられた中国像」を自分達の体験を通してぶちこわす責任を感じて、「斉了会」を作った。本書は、「見たこと聞いたこと」「中国の人々」「中国で考えたこと」の三部に分けて編集されているが、学生達が中国で一番感心させられたことは、本当に人間らしく成長している中国人に触れて、人間とはかくも美しいものであるか、ということだった。

途方もない国——市長・中国印象記 梅川文男

東京 御茶の水書房 1966 304 P. [7401]

著者は三重県松阪市市長。中国人民外交学会が招待し

た日本地方自治友好代表団という日本の市長ばかり6名の団体の団長として訪中。1965年9月末に中国へ入り、国慶節前後の北京に10日間、ハルビン・長春・瀋陽をめぐって東北に約1週間、その後武漢・蘇州・上海・杭州・広州を訪れた1月余の旅であった。本書には地方政治の担当者らしい観察、彼我の国の比較なども随所に見られるが、固苦しい報告の書ではなく、はじめて新中国の様々な場面を見せられての豊富な印象が旅行の道すじを紹介しながらこまかく述べられている。もとは松阪の『夕刊三重』に「中国あっち、こっち」と題して連載されたもの。

揚子江をさかのぼる——中国・激動のなかの民衆と生活 吉岡秀夫

東京 大光社 1967 300 P. [7462]

1966年4月から4ヶ月にわたって揚子江沿岸の都市を中心に、新中国の建設のありさま、民衆の生活取材した朝日テレビニュース社中国取材班の一人である著者の見聞記。各地の見聞を記した断片的な文章が、上海・杭州・蘇州・南京・武漢・廬山・九江・南昌・井岡山・長沙・北京と揚子江をさかのぼって各所を訪れた道程をおって場所ごとにまとめられている。ちょうど文化大革命の激動の始められた時期にあたり、そのさきがけを示す場面も描かれ、毛沢東思想が民衆の間によく滲透している様子が各所にみられる。図版が豊富に挿入されている。

アパート天国・魔法ビン文化——ソ連・中共カメラ旅行 石山四郎

東京 ダイヤモンド社 1967 191 P. [7544]

著者はダイヤモンド社副社長。1965年に55日間に亘ってソ連と東欧を、翌1966年には中国を16日間旅行した。本書はその共産圏見たままの記である。また現地消息通から聞いた話も随所にはさんである。この「アパート天国・魔法ビン文化」という書名は、現在ソ連では全国どここの都市へ行ってもアパートの建設がすごいスピードで進められている、ということと、生水が飲めない中国では、魔法ビンが生活必需品になってよく普及している、いうなれば、中国は目下魔法ビン文化の段階である、ということからつけたのである。本書には、著者の撮った写真がたくさん掲載されている。

経営者の見た共産主義国・中国 鈴木伝六

東京 日本生産性本部 1966 348 P. 図版 [7379]

筆者は製菓会社社長で山形県議会議員。日本国際貿易地方議員連盟の訪中団の一員として、1966年4月末から一ヶ月間中国を旅行した。広州・北京・ハルビン・長春・瀋陽・鞍山・天津・杭州・上海・蘇州を訪れ、旅行日程に従って毎日の見聞を詳しく記している。人民公社・各種工場・名勝旧蹟見学の様子のほか、特に経済面の観察が細かく、人民公社員や工員、元資本家らの給料、かれらの住居、商品の値段などにもふれていて、企業経営者らしい目が感じられる。筆者撮影の写真が豊富に収められている。なお、本書の後半は、筆者が1960年に東南アジアを訪れた時の記録である。

花に思想があるか——整風下の中共探険記 大島康正
東京 東都書房 1966 200P. [7394]

著者は文化革命初期の1966年5月15日から6月14日まで1ヶ月に亘って自費で中国を訪れた。訪問した都市は、広州・武漢・鄭州・洛陽・北京・天津・済南・曲阜・南京・無錫・蘇州・上海・杭州。本書はその見聞記であるが、文化革命を中心にした生きた人間の行動が主に描かれている。この書名は、武漢で通訳の女性に「花を見ればだれだって美しいと思うでしょう」と質問したのに対し、「花に思想がありますか、毛思想がありますか」と反論されたところからとっている。中国滞在の間、徹底的に毛思想というものを学習しようと考えた著者は、「毛沢東思想とはいったい何か」という質問を到る所でしたが、その平民的次元での回答は、「人民に奉仕せよ」「禹公山を移す」「パチューンを記念する」この三つのことだった。結論として著者は、毛沢東思想による文化革命とは、文化を否定する文化革命であり、いったい人間がどこまで単純になり得るかということの大きな実験であるが、今一つのはっきりした文化革命の狙いには、革命の後継者を養成しておきたいという、現在の指導者達の考え方が反映していると述べている。

学生参観団中国に行く 第2次訪中・学生友好参観団
東京 齊了会 1966 86P. [7588]

1966年7月21日から8月5日まで、1965年に引き続き、118名の学生が第2次訪中学生友好参観団として、広州・杭州・上海・北京を訪問した。帰国後、学生達が自分の目で見、肌を感じ、考えたことを少しでも数多くの人に知ってもらいたいという願いから、編集したもの。この旅行が紅衛兵出現の以前であったためか、本書には文化革命に関する記述はない。殆んどどの学生が、第1次訪中学生参観団の時と同じように、中国人が彼等に

示した親切な歓迎に感激し、その純粋な人間性にうたれている。

中国通信, 1964~1966 安藤彦太郎

東京 大安 1966 548P. [7438]

著者は早稲田大学在外研究員として、1964年7月10日から1966年8月2日までの2年あまり、中華人民共和国に出張し、主として北京に滞在した。その間、中国の各地を旅するほか、北朝鮮も2度にわたって訪れている。著者は中国滞在中に、北京および訪問地における見聞をつづった通信を定期的に日本におくって、『大安』、『アジア経済旬報』などの雑誌に掲載した。それがすべて85篇。これらを一冊にまとめたのが本書である。中国研究者で新しい北京に2年以上も滞在した人は、著者をおいて他にない。したがってこの通信文集によってうところは極めて多い。なお、著者が帰国後に書いた『北京でみた「文化大革命」』、『紅衛兵とその背景』が附録されている。

天安門炎上す——毛沢東革命の内幕 大森 実

東京 潮出版社 1966 327P. [7423]

中国の文化大革命の実地見聞記。著者は毎日新聞記者として活躍した人。現在は独立して評論家。1966年9月10日から24日まで、著者は世界の関心を集めている文化大革命の実体をとらえるため、大宅壮一らのいわゆる大宅考察組の一人として中国各地をまわった。ちょうど紅衛兵の激しい行動が各都市で進められている時期である。短期間ではあるが勢力的に広州・上海・無錫・南京・天津・北京・武漢とめぐり歩き、各地に現われた革命の様相の見聞、紅衛兵達との会見、様々な情報の入手など、ジャーナリストとしての著者の観察・思考を縦横に働かせて、この革命の本質を解明しようとしている。本書では中国共産党上層部の対立抗争という著者の解釈をもとにして、現在この革命の起された原因、現象の推移、将来の見通しなどを、国内及び国際的な観点からも眺めわたして説明している。

中国見たまま 小坂善太郎

東京 鹿島研究所出版会 1967 169P. [7583]

文化大革命開始後間もない1966年9月、自由民主党訪中議員団の一員として、4週間に亘って、著者は北京・洛陽・上海・杭州・広州を訪れた。北京には約2週間滞在し、周恩来・陳毅・廖承志・郭沫若等と会見。著者

遠

思

遠

国

遠



は、日本は現在のアメリカと友好国であるという現実を踏まえたうえで日中友好への道を探り出すべきであり、そのためには、米中間のトゲトゲしい相互不信感に基づく対立関係を緩和するための努力を日本がすべきであると考え、中国大陸旅行の印象や経験をアメリカの要路の人々に話し、少しでも米中間の和解に資することができれば、と願って同年の11月にはアメリカを訪問した。本書は帰国後、方々で講演した記録の中から、中国についての代表的なものをまとめたものである。従ってその内容は重複する部分が多い。

紅衛兵——赤い人間像を追う 高木健夫

東京 合同出版 1967 284P. 図版 [7550]

本書は、1966年11月頃中国を訪れ、紅衛兵の活躍するさまを見てきた著者が、「紅衛兵の発生とその伝統と本質を考えること」が「中国そのもの」を考えることであるとの見解により、いろいろの側面から紅衛兵をとらえ、まとめたものである。すなわち、著者がじかに接したり、周囲の大人たちの話から得た紅衛兵の姿、人民日報等に掲載された記事、台湾の出版物にのった脱走者の話、ソ連の見方、日本の高校生の見方等が紹介されている。その他、文化大革命全般について、1966年8月8日の中共中央委員会の決定、人民日報社説、1967年2月迄の経過をのせている。

中国文化大革命 菅沼正久

東京 三一書房 1967 245P. 図版 [7545]

著者は東京農大講師、中国研究所所員。中国科学院哲学社会科学部が招待し、日中友好協会正統本部が派遣した訪中日本社会科学術代表団の一員として、1966年11月24日から12月25日までの1ヶ月を中国旅行した。団長は馬場克三。著者達は北京大学、5つの人民公社（北京郊外の紅旗人民公社、瀋陽郊外の二一三人民公社、杭州の西湖人民公社、吉安郊外の紅旗人民公社、南京の十月人民公社）、10の国営企業（鞍山製鋼公司、上海の国営第二綿紡織工場、北京百貨店等）を見学している。本書は著者がこの時の見聞で確かめた事を基として、社会主義社会における文化革命の理論を述べたものである。著者は1958年の「社会主義建設の総路線」にはじまりプロレタリア文化大革命へと発展した中国社会主義社会の変革の本質をとらえるには、中国共産党の社会主義社会の理論（社会主義社会を共産主義社会にいたる過渡的社会としてとらえ、依然として階級対立、上部構造と下部構造の矛盾が存在する社会であり、上部構造にすくうブルジ

ョア・イデオロギーと激しい闘争を行って、精神労働者による文化の占有を打破する文化革命を遂行しなければならないとする）を理解し、この理論が文化大革命全体を貫徹しているのを見なければならぬと説いている。

共産国東と西 林健太郎

東京 新潮社 1967 191P.

[7543]

著者は、1966年8月から9月にソ連・東欧を、1967年1月21日から2月3日まで中国を旅行し、帰国後雑誌や新聞に旅行記を発表した。本書は、それら6篇と新たな書き下し1篇より成る。うち2篇が中国に関するもので、印象記と理論的考察に分れる。村松暎（慶応大教授）、土井章（昭和同人会）ら10人のグループで、広州・武漢・北京・上海・杭州をまわって、各地で見た文化大革命の様相を記している。深州駅では毛沢東をたたえる歌と踊りの歓迎をうけ、武漢で「人民裁判」を目撃した。また、閉鎖された北京の宮殿や歴史博物館、詳細な説明をうけた杭州の人民英雄を記念する博物館、その他いたるところにみかける紅衛兵や壁新聞等につき、著者は疑問を抱き乍らその感想を記している。そして理論的には、社会主義社会における階級闘争、上海の一月革命とパリ・コミューンの関係等を中心に、日本の思想界にうけ入れられた文化大革命について著者の見解を述べている。本書では、「自由化」の途をすすむソ連・東欧諸国と革命渦中の中国を比較できる点が面白い。

毛沢東の焦慮と孤独 村松暎

東京 中央公論社 1967 224P.

[7599]

近世中国文学研究者である著者は、1966年4月になされた郭沫若の自己批判に仰天して、文化革命を調べているうちに、中国の文化が現在存亡の危機にあると感じ、一年間文化大革命について考えてきた。その著者が1967年1月21日から2月3日まで毎日新聞社の文化大革命特派視察団（団員は、土井章・林健太郎・荒巻万佐行と著者の四氏）の一員として、日中平和観光社の観光旅行団に混じって訪中した。訪問先は、武漢・北京・上海・杭州・広州。本書は3章に分かれている。第1章は、「文化大革命を考える」と題して、文化大革命に関する論文二篇。第2章は、「文化大革命を見る」で、訪中の際の日記と帰国後毎日新聞に連載したもの。第3章は、「文化大革命の評価をめぐって」と題して、文化大革命の性格から考えて、新しい文化の成立が可能かどうか、を論じている。著者は今度の文化大革命が、非論理、不合理の精神に基づくものであり、毛沢東思想は闘争すな



わち破壊の論理のみが大きく前面に乗り出し、創造の論理は著しく稀薄になっているため、大衆は毛沢東の恣意のままに混乱の中に投げ込まれ、中国の過去における輝やかな文化は葬られ、また将来の芽さえも摘みとられようとしている、とみて、現在行われている革命は、中国にとっては余りにも高価な徒労になるであろう、と結論している。巻末に現代中国史年表が附されている。

中国・東南アジア——世界の旅9 座右宝刊行会

東京 小学館 1966 175P. 図版 [7597]

多数のカラー写真が収められた中国・東南アジア旅行のガイドブック。中国と東南アジア各国旅行の印象記が本書の半ばを占めるが、中国は山本健吉「中国紀行」と、阿部徹雄「新中国の近況」の二編。山本は1957年10月末から11月末にかけて日本文学代表団の一員として訪中したもので、同行者は中野重治・井上靖・本多秋五・堀田善衛・十返肇・多田裕計等。著者が訪れた都市のうち杭州・蘇州・広州の印象を述べている。阿部は毎日新聞元写真部長で1965年5月から6月にかけて中国を観光旅行した。広州・上海・北京・杭州等を訪れ、都市の市場・工場や、工場労働者住宅地を見学している。本書には旅行記ではないが1963年、1964年と2度にわたり訪中した岡山大学法学部教授河野通博の手になる中国の政治・経済・文化・社会一般に関する概説がのせられている。巻末に地図・国歌・日常会話が収められている。

<補遺>

素顔の社会主義国——十人のジャーナリストは報告する
城戸又一編

東京 東洋書館 1956 253P. [6119]

1956年6月ヘルシンキで開かれたジャーナリスト国際集會に参加した10人の日本代表団が、帰途ソ連、中国、北朝鮮、モンゴル、ポーランドを歴訪した時の記録を分担執筆してまとめたもの。中国訪問は、中国新聞記者聯誼会の招待によるもので、途中4日間の北朝鮮を含めて7月1日から8月6日まで滞在し、北京・長春・ハルビン・瀋陽・撫順・鞍山・上海・杭州・広州の各地をまわった。開けっ放しの監獄、予想外に発展している農業合作社、私企業の公私合営への移行と民族資本家、十分に心のくばられている児童施設や養老院、人民の憩いの場となった西湖などに新中国のあり方を見ている。また、工業都市として発展しつつある東北諸市やすっかり清潔になった上海の様子も伝えている。

反共イデオロギー外交を排す 宇都宮徳馬

東京 番町書房 1966 222P. [7600]

1961年～1966年に諸雑誌に発表した文章を中心に、日本のアジア外交に関する著者の意見をまとめたもの。中に一篇、著者が1962年12月に中国を訪れ、北京・武漢・桂林・陽朔・南寧・広東をまわった時の簡単な見聞記が含まれている。中国のほか、北朝鮮・北ベトナム・カンボジア訪問とそれらの国の首脳との会見を通して、アジアの新しい民族主義を理解することの必要を説いている。そして、日本政府の対米外交・対韓外交、さらには1970年の安保改定問題にまで筆を進めている。

中華人民共和国 NHK特別報道班

東京 日本放送協会 1965 261P. 図版 [7001]

NHKが特別報道班を世界の各地に派遣して作成する海外取材番組の一つとして、1964年9月末より2ヶ月間、中華人民共和国を取材旅行した時の記録。一行は、団長とプロデューサー、カメラマンの三人。本書の前半では、取材のコースに従い、広州・北京・西安・延安・洛陽・上海・蘇州・杭州・無錫・武漢・桂林の各地の紹介がなされ、後半では、著者らの取材が中国の民衆に焦点をおいたものであったので、若い世代のこと、婦人の服装、料理、床屋やふろ屋などといった人々の日常生活に関するさまざまな見聞をしるしている。取材上の苦勞、また第一回原爆実験の成功とフルシチョフ解任の大ニュースを聞いた時の様子なども、ところどころにおこまれている。

新中国の生活指導 小川太郎編 小川さち代訳

東京 明治図書出版 1966 222P. [7231]

本書は、中国の少年先鋒隊の活動、学校・施設・家庭における児童の指導、青年・成人の意識の変革に関する実践報告を翻訳、編纂したものである。その附録に「最近の中国の教育をめぐる」と題して、編者が1964年10月～11月の1ヶ月間、訪中学術代表団の一員として中国を訪れた時の報告を収めている。教育と労働の結合という観点から中国の教育の特徴を把握し、人民公社立の農業中学、工場の「半工半読」の学校に強い関心を示している。また「自力更生」「比学趕幫」「又紅又專」という言葉の実践の中にみられる精神を、教育のあり方の面からとらえている。

(24頁へつづく)



近代中国研究センター彙報 No. 10

1967年10月20日発行 頒価 250円

編集発行 近代中国研究センター

東京都文京区本駒込2丁目28番21号東洋文庫

